「三条教則」関係資料（二十三）

本号は

○『三条叢説』巻三・巻四　瑕丘宗興　（明治八年七月）

○『大道本義』〔抄出〕　浦田長民　（明治十年一月）

○『三条大意』　萩園雷雨　（明治十年七月）

の三点を収める。

解　題

『三条叢説』巻三・巻四　瑕丘宗興（明治八年七月）

本書の前半部（巻一・巻二）は、前号に収戴したので、本号は後半部分の巻三・巻四の二冊を掲戴する。体裁等の詳細については前号で紹介したので、これを省くが、内容は巻三と巻四の二冊とも三条広説と題し、巻三が三条教則の第二条に対する、きわめて詳細な衍義（三十二丁）、巻四が第三条に対する、きわめて詳細な衍義（本文二十三丁、諸国弘通書林広告二丁半の計二十六丁）となっている。

なお、本書の翻刻掲載に際しては、筆者架蔵本に依った。

『大道本義』〔抄出〕　浦田長民（明治十年一月）

本書は版本、袋糸綴、上巻三十二丁、中巻三十丁、下巻六十丁の三冊より成る。第一冊表紙題簽に「大道本義　上」、第二冊表紙題簽に「大道本義　中」、第三冊表紙題簽に「大道本義　下」とある。第一冊表紙見返しに「紀元二千五百三十七年明治十年第一月刊行　大道本義　版権所有　明治九年八月二十日聞官　神宮教院蔵版」とあり、次いで三条実美による題字「稽古照今　録古事記序中語」（二丁半）があり、著者浦田長民の「自序」（三丁半）、「凡例」（一丁半）、「目録」（二丁半）のあと、本文（一丁二十行、一行二十字の体裁）三冊が続く。

次に、本書のうち、三条教則に関する衍義部分は、上巻（第一冊）と下巻（第三冊）の一部分だけの抄出なので、目録と題する目次を掲出しておく。「大道本義目録　上巻　論二道之本原一、第一章　論二天神造化一、第二章　論三「諾」「枡」二尊生二成諸神万物一、第三章　論二天祖為二天地大主宰一、第四章　論三「豊姫」開二衣食之源一、第五章　論二瑞珠盟約一、第六章　論二「大己貴」経二営国土一、第七章　論三「少彦名」闢二常世国一、第八章　論二「大己貴」避国一、第九章

論顕幽分界、第十章　論天孫降臨下土、第十一章　論宝祚宝鏡二勅為万世之大訓、第十二章　論五倫之道為皇国固有之教、第十三章　論三条教憲為道之要領、中巻　徴道於事物、第一章　徴於神典、第二章　徴於神勅、第三章　徴於神蹟、第四章　徴於日月星辰、第五章　徴於風火金水土、第六章　徴於国土、第七章　徴於衣食、第八章　徴於植物、第九章　徴於動物、第十章　徴於人身、第十一章　徴於霊鬼、下巻　論奉道之分、第一章　論幽界之理、第二章　論霊魂不滅、第三章　論善悪報応、第四章　論罪穢、第五章　論死候、第六章　論悔悟、第七章　論誦読神典、第八章　論立信尽誠、第九章　論守三条教憲、第十章　論自省、第十一章　論尚勇、第十二章　論解除、第十三章　論祭祀、第十四章　論祈祷、第十五章　論霊魂帰宿、第十六章　論著書本旨」（傍線箇所が抄出部分である）。下巻末尾に重野安繹撰、佐瀬得所書による明治丙子歳十一月揮毫の「後序」（二丁）があり、そのあと「版権所有　明治九年八月二十日聞官　定価金五拾銭　発行所　東京愛宕下町三丁目　博聞本社　売弘所　同常盤橋前　同支店　西京古門前三吉町　同分社　大坂心斎橋南久太郎南江入　同分社　千葉県下　同分社　埼玉県浦和駅　同分社」とある。

著述者は、幕末・明治の神道家として著名な浦田長民（天保十一年―明治二十六年、一八四〇―一八九三）である。長民は伊勢宇治山田の人で、号は改亭、天保十一年三月一日の生れ、安政四年皇大神宮権禰宜となり、同六年家を嗣いだ。斉藤拙堂に詩を学び、文久三年天誅組と気脈を通じ尊王に志すが禁固され慶応三年許された。明治元年度会府御用掛、神祇並学校曹長、市政曹長となり、同二年度会県少参事となる。同五年には神宮少宮司となり、大宮司田中頼庸を補佐して明治祭式や神嘗祭儀式などを定めた。のち東京府や宮内省御用掛、控訴裁判所判事、度会・鈴鹿などの郡長を歴任するが、特に神宮大麻の事業のため大麻製造局を建てたり、大教宣布に呼応して神宮教院を開いて宣教に尽力した。明治二十六年十月二日、五十四歳で没した。著書には『神典採要』『神宮定本大祓詞』などがあり、本書成立の明治十年は神宮少宮司、従六位中教正で三十八歳のとき、神宮教院からの印行であった。

抄出掲載箇所は、上巻第十三章と下巻第九章の二箇所である。

なお、本書の翻刻掲載については、國學院大學「河野省三博士記念文庫」所蔵本に依った。

『三条大意』　萩園雷雨　（明治十年七月）

本書は版本、一冊、袋糸綴、全十五丁の小冊子である。表紙見返しに「版権免許　萩園雷雨著　三条大意　全　明治十年七月発行　共立堂梓」とあり、次いで本文十四丁が続き、末尾に「版権免許　明治十年六月十四日　京都府平民　権少教正　著述者　萩園雷雨　下京第拾五区林下町付籍一心院住職　京都府平民　出版人　小林菊三郎　当時上京第世区等持寺町七拾二番地寄留　西京　発売人　出雲寺文次郎　書林　同　高橋松影堂」とある。一丁十四行、一行十三字という体裁から見ると、本文十四丁ではあるが、分量は少ない方である。つまり、本書は明治十年六月十四日に版権免許を得て、翌七月に発行したのである。

内容から見ると、仏教用語を何箇所か使用している程度で、格別珍らしいと言うほどのものではなく、分量的にも書名どおりの大意と言うべきものである。

そして、著述者は末尾に、浄土宗知恩院のある「林下町、一心院住職」とあることから、浄土宗の学僧であった萩園雷雨であることがわかる。したがって、三条教則に対する衍義書は、雷雨にとっては、明治五年秋の『布教三章弁』一冊（当該書は、「本紀要」復刊第十六号、三条教則関係資料（二）の一一五頁―一一六頁に収載済み）に次いで、二冊目であった。

著者の萩園雷雨は、もと山城国阿弥陀寺に住したが、のち一心院（現在、浄土宗捨世派本山）第五十四世となり、戒律を重視し、とりわけ天台学に優れた学僧であった。明治五年には知恩院勧学所で『天台四教儀』『大乗起信論』『浄土源流章』等を講じている。また、明治五年の『布教三章弁』と五年後の本書を比較考察するに、前書が衆僧に

示す講義用であったと言われるが、本書もほぼ同様、政教一致の教えとして、教導職たる者への再度の三ヶ条把握のための心得を示したものと考えてよいだろう。したがって、分量や文字表現も「太祖」「神祖」など前書に類似した傾向をもっているようである。

なお、本書の翻刻掲載については、國學院大學「河野省三博士記念文庫」所蔵本に依った。

（三宅）

凡　例

凡例については、前号にしたがった。

『三条叢説』巻三・巻四　瑕丘宗興　（明治七年十一月）

瑕丘宗興著　三条叢説巻之三

三条広説第二

○第二条ニ就テ、先惣意ヲ弁セハ、天理人道トハ所明ノ事也。アキラカニストハ能明ノ智也。ヘキコトトハ第一条ノ中ニ弁スルカ如ク准知スヘシ。所明ノ事ノ中、天理ヨリ起レル人道トスレハ、天理之人道ト云フ依主釈ノ意ナリ。又人道ハ天理ニ順スル者故、天理ヲ含有スル人道トスレハ有財釈也。コノ二釈ノ意ナレハ、天理人道ノ四字、併セテ一箇ノ人道ヲ成スル也。但天理人道ハ、固ヨリ相ハナレサル者ナレトモ、今ハ且ラク天理ト人道トノ二種ノ義理ヲ明了ニスルノ意ナレハ、天理ト人道トヲ双ヘ挙タル相違釈ナリ。然フシテ今、所明ノ天人ヲ挙テ其能明ノ智ヲ成セシムルノ意ナル故、天理人道ノ明ト云フ依主釈ノ意ナリ。次ニ別シテ其義趣ヲ弁セハ、荀子論天ニ明二於天人之分一則可レ謂二至人一矣ト云ヘリ。所明ノ中天理人道先天理トハ、此語諸書ニ於枚挙スヘカラストイヘトモ、今且ク其一二ヲ出サハ、不レ逆二天理一ト云ヒ、天理ノ常ト云ヒ、滅二天理一ト云ヘリ。宋儒ノ学ニ於ハ、口ヲ開ケハ輒チ天理ト云、性理大全等ノ書ニ云云。此余又単ニ天トノミ云アリ諸書ニ洋溢ス。又天道書易等ト云、天之道老子等ト云ヘリ。又天地ト連ネ、天人ト連ネ、天地人ト連ヌルアルナリ。理ト云ハ、タヽ天ニ属スルノミナラス、地理ト云ヒ易等、人理ト云ヒ准南子等、物理正書等、万里伝子等、性理正書等、性命之理易書、万物之理書、天地之理管子等、天下之理易等ト云ヘリ。今先天理ト云ハ、天ハ字典ニ曰、説文ニ顚也至高在レ上従二一大一也ト、白虎通ニ鎮也居レ高理レ下為二物鎮一也ト、荀子天論ニ天無二実形一地之上至虚者皆天也、邵子曰、自然之外別無レ天ト云々。天台ノ法華文句四ニ天ハ天然自然ナリト云ヘリ。慈恩ノ法華玄賛二ニ、地持云所受自然故名為レ天ト云ヘリ。何レモ皆天趣ノ天ヲ釈シテ云爾。理ハ条理ノ謂ニシテ、一切其筋ノ貫通スルヲ謂フ。其中事理相対ノ理ハ事ト云ハ、一切色心等因縁所生ニシテ、其見聞覚知スヘキ物ガラアルヲ謂フ。理ト云ハ本有本然トシテ其事々物々ノ本性トナル者ニシテ、其形質事躰ノ見ツヘキ無クシテ、而モ其事々物々ノヨク然ル所以ノ本トナル者ヲ謂フ也。又教理義理ト云カ

如キハ、教ハ能詮ノ言音、理ハ其所詮ノ義理也。義理トハ、其詮スル所ノ事、其レ〳〵義門差別シテ、其事々々（ママ）ノ条理アルヲ云。因ヲ語レハ、因ハ因ノ筋有テ果ニ混セス、果ヲ談スレハ、果ハ果ノ筋有テ因ニ濫セス。苦楽等ヲ談スル義門、差別ノ条理モ亦然リ。此其事上ニ於義門差別シテ、各其違ハサル筋アルヲ謂フ也。地理ト云カ如キハ天文ニ対シテ地理ト云ヘハ、天文ハ日月星辰等ノ天ニ列ナルヲ云フ者ナレハ、地理ハ則山川田野等ノ次第ニ連リテ、其理脈アルヲ謂フ。人理ト云ハ准南子（氾論）ニ当テ於世事得於人理順於天地則可以正治矣ト云ヘハ、人理トハ人ノマサニ行フヘキノ理ニシテ、即是レ人道ナリ。無量寿経ノ鈔了（恵）ノ五ニ経ノ人理殆尽ノ文ヲ釈シテ、理ト者分也正也道也、雖レ在二人報一人業垂レ尽（ルニ）ト云ヘリ。人業トハ人タル者ノ業作スル所ヲ云フ、即コレ人道ナリ。倫常ノ道ヲ修ルヲ云フ也。或ハ亦生産ノ業ヲ指テ人業ト云フ。万里ト云ヒ、物理ト云モノ、コレヲ合テ云ヘハ万物ノ理ナリ。天下之理ト云ヘル者ハ、コレ天下ニアラユル万物ノ理ト云ハンカ如シ。天下万物ノ理トハ、世間ニアラユル万事万物ニ皆其レ〳〵ノ条理アルヲ云フ。水ハ下リ流レ、火ハ上リ揚カルノ筋アリ。善ヲ修スレハ終ニ作興シ、悪ヲ行ヘハ終ニ滅亡スルノ条理アル等、無辺ノ事物ニ於、無辺ノ条理アル也。性ノ理ト云ヒ、性命ノ理ト云カ如キハ、天理ト云ニ粗同シ。中庸ニ天命之謂レ性ト云ヘリ。諸書ニ往々仏教ノ義理ヲ指テ仏理ト云フ、法性ノ真理ヲ謂ニ非ス。皇典ニマ、神理ト云ヘル者ハ、神明ノ業用ヲ指テ言フ者ナリ。今天理ト云ハ天然自然ノ理ナリ。即是天-地-人-物一切万-理ヲ統摂スル本性ノ一理也。天地人物等ノ万法、其事ノ無辺ナルニ従フテ、其理モ亦無辺ナリ。而今天理ハ其無辺ノ理ヲ統摂スル者ナレハ、本性ノ一理ハ無辺ノ理ヲ含ム。万物随テ皆虚空ヲ具ス、而虚空ハ本ト一ニシテ無二ナルカコトシ。サレハ無辺ノ事理ハ真性ノ一理ヲ本トスル也。是ヲ仏教ニ於ハ法性真如ト名ル也。此レ其生滅ヲハナレタル天然ノ真理也。斯義ニ拠テ天理人道ヲ弁スルトキハ、人道ハ唯人趣ノ一ノミヲ取ルニ非ス、法ニ対シテ人ト云ヘハ、仏モ衆生モ同ク是レ人也。苟モヨク其天然ノ真理ニ順シテ行修スルコトアラハ、六界ノ凡夫ノナス所モ同ク是レ人道也。四界四聖ノ修証スル所、本ヨリ人道ナルニ論アランヤ。斯義甚高妙ナレハ、今ノ所談ノ主トスル所ニ非ス、但是義趣ノ蘊底ヲ講究スルノミ。若夫コレヲ宋儒ノ説ニ拠テ論スルトキハ、天理ハ亦是レ天然自然ノ理トス、即コレ太

極無極ナル者也。コノ理ヲヨク修シ明カニスルヲ明々徳ト云、コノ天理ノ明徳ヲ明カニスル者ヲ聖賢君子トス。其聖賢君子タルヘキ事ヲナス、即コレ人道ナリ。問テ曰、天理ト天道ト其義同ナリヤ異ナリヤ。答フ、天理天道其義別也。周易ハコレ神道ヲ以、教ヲ設ル者也。故ニ其事物ノ上ニ於神異不測ナル義ヲ明ス。故ニタヽ天道ト云テ天理ト云ハス。天理ハタヽ天然自然ノ理ノミニシテ、万里総統ノ本理也。神異不測ヲ論セスシテ可也。但其近キ事物ニ於、遠理ノ不測ナルコトアルヲ論スルヲ主トスルカ故ニ、天道ト云ヒ、天下之理ト云ヘリ。サレハ天道ノ天ハ唯自然ノ理ノミニハ非ス。別ニ事躰アル蒼々ノ上天ヲ指テ、其別躰ノ天ノ上ニ陰陽不測ノ道アルコトヲ示ス也。天下之理ト云モ亦爾リ。天下ニアラユル事物ノ上ニ不測ノ理アルヲ云ナリ。何ヲ以其然ルコトヲ知ルトナレハ、既ニ地道人道ニ連ネテ天道ト云フ。地ト人ト固ヨリ物躰アリ、天独リ物躰ナカランヤ。問テ曰、周易ニハ唯地理トノミ云テ天理人理ヲ云ハス。爾レトモ余処ニ於、天理ト云ヒ人理ト云フ。爾ルトキハ理モ亦天地人ニ通スレハ、天理ノ天モマサニ別躰アルヘシ。地ト人トニ対スヘキカ。故ニ答テ云、然リ。前ニ云トコロノ天理ハ、理即天ノ持業釈也。若コレヲ天之理ト云依主釈トスレハ、天ハ上天ノ天ニシテ、天ニ別躰アリ。ヨク二五ノ妙用ヲ以、万物ヲ造化スルノ理有テ、天道ト其義ヲ同フス。サレハ二重ノ天理有テ、唯理ノ天理、事上ノ天理ト云テ可ナラン歟。問テ曰、天地ノ理ト云ヘルハ、唯理ノ天理ヨリ開ケルヤ、将事上ノ天理ヨリ開ケルヤ。答、事上ノ天理ヨリ開ケリ、地ニ対スルノ天ナルカ故ナリ。問曰、事上ノ天理ニ於、其天躰何物ソヤ。答、此レニ三種アリ。一ニハ蒼天、二ニ神天、三ニハ業天ナリ。一ニ蒼天トハ、所謂彼蒼タル者ハ天ト是ナリ。スナハチ巾上ニ仰キ見ル所ノ青天ナリ。カノ蒼天ハ其躰積気ニシテ、所謂清テ軽キ者ハノホリテ天トナル者是也。此積気ノ天、ヨク陰陽五行ノ気ヲ降シテ万物ヲ造化シ、生々不已者ナリ。春雨ヨク草木ヲ生シ、秋霜ヨク草木ヲ殺ス。殺シテ復生シ、生シテ復殺シ、生々変化無窮ニシテ、逝水ノ昼夜ヲ舎サルカ如ク、即是天理ノ流行ナリ。此レカノ積気ノ蒼天ニ於、自然ニ斯ル神明ナル生々変化ノ条理ヲ具フルカ故ニ、コレヲ天理ト云。便チ是レ天道ナリ。問曰、

善ニ福シ淫ニ禍シ、景雲甘露ノ治世ヲ賞シ、震雷殞霜ノ不仁ヲ罰スル等ノ事、皆是天道ナリトス。天躰、若積気ナラハ、固ヨリ無心ナルヘシ。安ソ物ノ善悪ニ意アランヤ。善悪ニ意アル者ニ非レハ、天道ハ畏ルヽニ足ラス。孔子何ソ畏二天命一ト云ヒ、周易何ソ天地ノ心ト云ヘルヤ。答、事上ノ天理ハ積気ニシテ、無心無意ナル者ナレトモ、此レ其本性唯理ノ天理ヲ帯ルカ故ニ、天然自然ニヨク善悪ニ報ユル等ノ義ヲ成ス。即是善悪等ニ意アル者ノ如シ。カクノ如キ自然ノ条理畏レサルヘケンヤ。二ニ神天トハ上天、上帝等ト云ヘル者、唯積気ナル者ニ非ス。彼積気ノ天中ニ於テ、別ニヨク主宰スル者アリ。故ニ天ト云ヘル名ハ、仏教ニテハ依正二報ニ通スル也。清精ナル気ノ積レル界ヲ指テ天ト云。天ニ昇リ天ヨリ降ルト云ヘル天是ナリ。又其清気ノ界ニ住セル神人ヲ指テ天ト云。梵天、釈天等ト云ヘルカ如キハ是也。六趣ノ中、天趣ト云カ如キハ、其正報ノ身ヲ指テ天ト云ナリ。趣ノ躰ハ有情ニ在ルカ故ナリ。サレハ不測ノ通力ヲ具フル神人、彼清気ノ界中ニ在テ、能ク主宰シテ万物ヲ造化ス。故ニ福善禍淫ノ権有テ、ヨク善悪ニ報ヒテ毫モ謬ラサル也。天之心ト云ヘル、宜ナル哉。問、其清精ノ妙境界ハ云何ナル物ソヤ。又其妙境ニ逍遥シテ、ヨク万物ヲ造化スル神人トハ何物ソヤ。答、仏教ニヨレハ三界九地ヲ立テ、欲、色、無色ヲ三界トシ、色、無色ノ二界ニ各四地ヲ分チテ八地トシ、コレニ欲界ヲ并セテ九地ト云。而欲界ノ中、六天アリ。色界ニハ十八天、無色界ニハ四天アリ。合セテ廿八天処アリ。而此妙境ノ天処ニ遊ヘル者、下ヨリ云ヘハ四王ノ天、忉利ノ天等ト云ヒ、上ヨリ云ヘハ非想非々想処ノ天等ト云ナリ。問、三界ノ天、凡ソ廿八類アリ。各皆神用アリテ万物ヲ主宰スルヤ、将別ニ統御ノ主アリヤ。答、仏祖統記廿八丁卅二ニ天主ヲ論シテ、欲界初天ノ四王ハ須弥ノ四洲ニ主タリ。其第二天ノ忉利ノ帝釈ハ忉利ト四王トニ主タリ。其第六ノ他化自在ハ統テ欲界ニ主タリ。色界ノ初禅ニ居セル梵天王ハ色界初禅ノ主ニシテ、而モ其号令上下ノ諸地ニ被フリ、且四方ノ三千界ニ及ヘリ。爾ル所以ハ此界ノ三界ハ三千界ノ中ニ居スルカ故、此界ノ初禅ノ主、四方ニ通シテ三千界ノ主トナレハ、自界ノ中ノ上下ノ諸地ニ通スルニ論ナシ。故ニ法花等ノ経ニ梵王ヲ呼テ娑婆世界ノ主ト云ナリ。爾ルニ又

色頂ニ居セル大自在天ヲモ三千界ノ主ト云ナリ。章安、此二途ヲ判シテ、摩醯大自在ハ、処二千色頂一以テ報勝ルヽヲ為レ主、梵王ハ、居レハ二大千中一ノニ以統御一為レ主ト云ヘリ。按ルニ、此レハ姫周ノ末世ニ、王主ト覇主ト並ヒ在ルカ如クナル者歟。右ニ弁スルカ如ク、四王等ヨリ大自在ニ至マテ均ク皆主ナリ。而裟婆界ニ処スル者ハ梵天大自在ヲ主トシ、裟婆界ノ中、欲界ニ属スル者ハ他化自在ヲ主トシ、欲界ノ中、洲ノ人界ニ処スル者ハ四王ヲ主トシ、人界ノ中ニテモ南閻浮提ニ居スル者ハ、毘楼勒又(ママ)天王ヲ主トスルナリ。如レ是主ノ名ハ同ケレトモ、其主ニ尊卑ナキニ非ス。猶君ノ名ノ上下ニ通スルカ如シ。君ノ名ハ宜ク天子ニ属スヘケレトモ、通シテ其臣ニモ名ル也。諸侯ヲ君ト云ヒ、乃至使君、府君等ト称スル也。今コヽノ正シク論スル所ノ天主ハ、其本ヲ取レハ摩醯梵世ニ在リ。其末ヲ取レハ帝釈四王ニ在ルナリ。問曰、造化主宰ノ本ハ定テ一主ナルヘシ。一子ノ身多父母ヨリ生スルノ理ナキ故ニ、主宰ノ一主ヲ定ムルトキハ何者ソヤ。答、大事ヲ弁スルコトハ一手ニ出シカタシ。故ニ大自在ヲ主トシ、梵天ヲ宰トシ、其余ヲ官属トシテ万物ヲ造化スヘシ。爾レトモ功ヲ其本ニ推セハ、大自在ヨク造化スト云テ可ナラン。問曰、大自在ヨク万物ヲ生スト云ハ、他因外道ノ計ニシテ、一因多果ノ失アル也、云何。答、一因多果、何ノ妨有ン。一粒ノ粟種ヨリ多粒ノ果実登リ、一点ノ芥種ヨリ無辺ノ芥実ヲ得ルカ如シ。問曰、一ノ粟種ヨリ一ノ粟芽ヲ生シ、一ノ麦種ヨリ一ノ麦芽ヲ生スルカ如キ、コレ一因一果ノ正法ナリ。一芽ノ漸々ニ長シテ多支ヲ栄ヘ、多実ヲ成スルカ如キハ、唯是レ一果上ノ差別ニシテ、此レヲ以、多果トナスヘキニ非ス、何ソ今一因多果ノ比況トナスヤ。答、問難誠ニ然リ。是故ニ彼天主ノヨク万物ヲ造ルト云ハ、穀種ノ芽ヲ生シ、父母ノ子ヲ生スルカ如クニハ非ス。直コレ君ハ民ノ父母ナリト云カ如ク、其ヨク長養スルヲ造化スト云ナリ。心地観経二国王ノ十徳ヲ説ク中、第九ヲ業主ト名ク。コレヲソノ偈文ニハ名能作造化功ト云ヘリ。其実ハ天主モ万物モ、俱ニ是彼不生不滅ノ真理ヨリ出テ、又無極太極ノ一理ヨリ生スル也。而下界ハ三災ヲ歴テ壊劫空劫ノ時モアレトモ、上界ハ無事安穏ニシテ、其下界成劫住劫ノ時ノ増上縁トナリテ、其化育ヲタスクレハ、是ヲ謂テ造化ノ主トスル也。問曰、皇典ニハ七代ノ天神、其余天祖天孫等ト云ヘリ。此レ等

ノ諸神ヲ指テ皆亦天ト称スヘシ。爾ルトキハ何レヲ以、造化ノ主トスルヤ。答、天地ノ開闢ハ諸神ノ未タ化生シ玉ハサルノ前ニ在リ。而其已ニ開ケタル天地ノ中ニ、始テ化生シ玉ヘル神ヲ国常立（又ハ天ノ御中主）ト云、次テ五代ノ神有リ。此五代ノ神ハ随テ五行ノ別徳ニ配スル也。爾ルトキハ初メノ国常立ハ五行ノ総徳ナリ。次ニ第七ノ諾冉二尊ニ至テ、正ク陰陽ノ二ニ分レタリ。乃チ五行ノ神徳ヲ合セテ万物ヲ生スル始メトス。（已上ハ正統記ノ意ナリ。）而二神先山川洲島等ヲ生ミ、次ニ天照太神等ヲ生ミ玉ヘリ。爾ルトキハ初ノ六神ハ其躰陰陽五行ノ精妙ノ気ヲ指テ神ト名ル者ニシテ、即万物カ為ノ能造ノ具也。而其能造ノ幽微ノ五行、顕著ニ陰陽相合シテ万物ヲ造化スルノ状ヲ示スコトハ、二尊ノ山川等ヲ生ミ玉ヘル所ニ在リ。故ニ能造ノ主ハ即諾冉ノ二尊ニシテ、山川等ハ所造ノ万物也。天照太神等トイヘトモ、皆其所造ノ中ニ在ル也。神代巻ニ云ク（一書）、天神（正統記ニ曰ク、国常立。）謂諾冉曰、有豊葦原千五百秋瑞穂之地、宜汝往循之等ト云ヘリ（循ハ因循ノ義ニシテ、先規ニ従フヲ謂フ。決疑編下五丁ニ、此天神ノ指玉フ所ノ文ニ依テ此国ハ往古ノ旧知ナル義ヲ明セリ。此義ニヨレハ。往循ト云ヘルモ、即其旧ニヨル義、可知。）国常立ノ天神ヨリ二尊ニ命シ玉ヘルト云ハ、五行ノ気ノ調熟シテ、マサニ万物ヲ化セントスルノ勢イヲ云ナリ。有形ノ神ノ口言ヲ以、勅命シ玉フニハ非ス、天ノ賦与スルコトヲ天ノ命ト云カ如シ。爾ルトキハ五行調熟ノ機ニ乗シテ、二尊コレカ為ノスクレタル増上縁トナリテ万物ヲ生玉ヘル也。此レハ猶父母ヨク子ヲ生ストイヘトモ、其実ハ父母ハタヽ其増上縁ニシテ、能生ノ本ハ上天ノ陰陽ノ気ナルカ如シ。サレハ陰陽五行ハ能造ノ具ニシテ、二尊ハ其レヲ助成シテ万物ト化セシムル也。問曰、若爾ラハ、ヨク陰陽ヲ運行シテ万物ヲ造化スル、其主宰ノ本ハ何物ソヤ。答、上天ナリ。決疑編ニ依レハ曰ク、神代巻ニ曰、高天原所生神名曰天御中主尊、言高天原者大梵天王宮也、天御中主尊者尸棄大梵天王也ト。コレハ御中主ヲハ別躰アル神トスルノ意ナリ。若御中主ハ唯是五行ノ神気ヲ謂フトスルトキハ、其五行ノ清陽ナル元気昇リテ天トナレル者、是其上天ナリ。其精妙ナル元気、自然ニヨク万物ヲ化生スル機ヲ含テ、終ニヨク万物ヲ成スハ、人ノヨク物ヲ主宰スルカ如シ。故ニ此上天ノ元気ヲ指テ造化ノ根本トスル也。而其元気ノ稍融和スル所ヲ指テ、天地ノ中ニ生ル葦芽ノ如クナル者トス。即コレ国常立ノ尊ト云者也。而

復其気ノヨク調熟シテ、正ニ万物トナレル所ヲ諾冉所生ノ山川神物等トスル也。問曰、右ノ所論ノ如クナルトキハ、七代ノ天神モ主宰ニ非ス、天照大神(ママ)モ主宰ニ非ル歟。答、前ニ論セシ所ハ造化ノ主、主宰ノ本ヲ顕ス也。若末ニ就テ論スルトキハ、二尊モ造化主ナルヘシ、天照モ造化主ナルヘシ。若唯偏ニ二尊又ハ天照ヲ以、造化主トスルトキハ、前ノ六代ノ神モ皆天地ノ間ニ化生シ玉ヘル者也。化生ハ即造化ノ一ニ非スヤ。後ニ在マス二尊等、安ソヨク前ノ諸神ヲ化生センヤ。是故ニ先、其根本ノ主宰ヲ論シテ、而後更ニ主宰ヲ論スヘシ。天子ハ天下ヲ主宰シ玉フノ本ナリ、乃至州郡県邑ヲ主宰スルノ官吏アリ。天子ハ郡県等ノ事ヲ親カラシ玉ハス。而天子ノ主宰被ラサル処ナシ。故ニ天子ハ民ノ父母ナリト云フ。官吏ヨク一州一県等ヲ主宰スレトモ、唯是天子ノ主宰ヲ輔ケ成ス者也。天子ノ主宰ヲタスケナス者、亦主宰ト云ハサルヘケンヤ。凡ソ汎ク造化ヲ論セハ、天下万国、百億ノ須弥界、総テ造化アラサルコトナシ。而五行ノ元神ヲ以、造化ノ主トスルコトハ、其道理万国普通ニシテ、之ヲ肯(レ)ンセサル者ナカルヘシ。若直チニ二神、天照等ヲ以、万物造化ノ本主トセハ、万国ノ為ニ嗤笑セラレテ、我カ国辱ヲ招ンコトヲ恐テ、故ニ今万国ノ公論トナランコトヲ要シテ此議ヲナス。是レ余カ一片ノ微衷ナリ。然ラシテ二尊、天照等ノ神明、其神徳得テ測ルヘカラサレハ、一切世界ノ万物ヲ主宰造化シ玉フヘケレトモ、其迹ニ就テ云ヘハ、恐クハ万国コレヲ肯ンゼジ。故ニ今我カ皇国ノ一天下ニ就テコレヲ論セハ、凡ソ空中ニ於テ有ヲ生スルヲ造化トスレハ、天地モ亦造化ナリ、気ノ所成ナルカ故也。既ニ天界アレハ亦天住ノ神アルヘシ。彼コ(ママ)ニ既ニ神アルカ故ニ二神モ天ヨリ下リ、高霊尊等ハ二神ニ先ツテ降レリ。又二神ノ矛ヲ以、探リ玉ヘル蒼海ノ如キ、其水モ亦万物ノ一也。是故ニ二神ノ開国已後、天地間ニ所有ル万物ハ皆二神ノ造化トシ、而其開国造化ノ功ヲハ二神自ラ任セスシテ、コレヲ天照ニ譲リテ、天照大神(ママ)ヲハ開国ノ主トナシ玉ヘハ、天照大神(ママ)ヲ以、造化ノ主トナシテ可也。問曰、造化シ玉フ所ノ万物ト云ハ、其躰何物ソ。答、天地ハ万物ノ逆旅ナリト云カ如キ、凡ソ天地ノ間ニ寄スル所ノ山川草木等ノ非情ノ諸類、且人神鬼畜等ノ有情ノ万種併セテ以万物トスル也。諾冉ノ生玉ヘル若干ノ山川等

ハ非情ノ諸類也。一女三男ノ如キハ是レ神ニシテ、而モ人類ノ祖ナリ。史伝ノ上ニ某ノ神ハ某ノ遠祖ナリ。某ノ神ハ某ノ遠祖ナリト記セルカ如キ、必シモ二神ノ生玉ヘル者ニハ非ス。問曰、造化主宰ト云ハ、必シモ生産スルノ謂ニハ非ス、タヽコレ之レヲ主領シテ、其生殺禍福ノ権ヲ持スルヲ謂ナリ。天子ノヨク善悪ヲ賞罰シテ万民ヲ生育スル威徳アルヲ民ノ父母ナリト云カ如クナルヘシ。否ナルトキハ解スヘカラサルノ事多シ。サレハ其ヨク主宰シテ生殺禍福等ノ天政ヲ行ヒ玉フ相如何。答、在天神明ノ徳、唯是天然自然ノ理ニ応シテ正大直方ニシテ、毫モ私ナシ。ヨク陰陽五行ノ気ヲ運行シテ四時行ハレ、百物生ルハ、怨親平等、生々ノ大仁ナリ。而其善ノ賞スヘキニハコレヲ生カシ、コレニ福ハイスルハ、所謂徳ニ報ルニ徳ヲ以スル者ナリ。其悪ノ罰スヘキニハコレヲ殺シ、コレニ禍ハイスルハ、所謂怨ニ報ルニ直ヲ以スル者ナリ。如是生殺禍福ノ勧懲差別アルハ、即是平等ノ大仁ナル所以ナリ。カクノ如ク正直ニ万物ノ宜キニ随テ之ヲ主宰スルハ、コレ神天ノ神天タル所以ンノ条理ナリ。問曰、天理ノ天ハ其名ハ高天原ニシテ、其躰ハ天照大神ナリ。而此大神ヨク人々ノ身体ヲ賦シ、又ヨク人々ノ魂魄ヲ与ヘ、死シテ後、復其高天原ニ皈ラシムト云説アリ。其義何如ン。答、万里ヲ推テ悉ク一大神ニ皈セハ、或ハサモ有ン歟。今按スルニ、大神ヨク人ノ身魂ヲ賦予セハ、鬼畜等ノ身魂モ亦然ン。人ニ在テモ生レナカラニシテ好醜貧富智愚等ノ別アリ、他日ノ善悪ニ従フテ賞罰等アルハ可也。何ノ愛憎スル所アリテ、生レナカラニシテ某ニハ好富ノ身ヲ与ヘ、某ニハ醜貧ノ身ヲ与ヘ、又某ニハ利智ナル心ヲ賦シ、某ニハ愚鈍ナル心ヲ賦シ玉ヘルヤ。鬼畜ノ如キハ其報本ヨリ劣ニシテ、且醜愚ナル者也。渠レ何ソ其賦与ノ不幸ナルヤ。且身魂斉シク天ヨリ降セリ、何ソ独リ魂ノミ天ニ皈テ身及魄ハ地ニ皈スルヤ。若一気ナレトモ軽ク清メル者ハ騰テ天トナリ、重ク濁レル者ハ滞リテ地トナルカ如シト云ハヽ、愚者ノ心魂ハ濁レハ天ニ皈ラサルヘシ。蚊蚋等ノ身ハ軽ケレハ天ニ皈ルヘシ。若愚者ノ魂ハ濁レル故ニ根底ノ国ヘユキ、蚊蚋ノ身モ魂ニ比スレハ重シト云ハヽ、紂王等ノ如キハ利智ナル故、極悪ニシテ上天スヘシ。柴也カ如キハ愚鈍ナル故、善人ニシテ地下ニ陥ン。抑マタ人魂ハ死アリヤ不

死ナリヤ。若人魂ハ不死ナラハ、未生ノ前モ此レ在ルヘシ、何ソ大神新タニコレヲ生スルヤ。若コレヲ死滅スト云ハヽ、天原ニ皈リ、底国ニ趣クノ事、皆虚談ナルヘシ。是故ニ身魂等ヲハ大神ノ賦予シ玉フト云ハ、新タニ生スルノ謂ニハ非ス。唯其当然ノ天理ニ順シテコレヲ主宰シテ、好醜貧富智愚等アラシムルコト、循吏ノ獄ヲ断シテ正直ニ其是非ヲ裁スルカ如クナルヘシ。三ニ業天トハ善悪ノ業作ヲ以天トス、業即天ナリ。凡ソ善悪ノ二業、其苦楽ノ二報ヲ招クコト、天然トシテ必セリ。コレ天ト名ル所以ンナリ。此レ仏教ノ三世因果、善悪業報ノ説ナリ。且ク無量寿経ニ依テコレヲ弁スルニ、彼経一部始終ニ自然ノ言ヲ説コト数十箇所、而人道ヲ勧誡スルニ至テハ天ヲ談スルコト屢ナリ。而先ツ前ニ彼土ノ殊勝ヲ説クニ、仏、阿難ト彼土ニ須弥山無キコトヲ問答スルニ、行業果報不可思議ト云ヒ、次ニハ彼聖衆ハ非天非人ニシテ、自然虚無ノ身ヲ受ルニ就テ阿難ト問答スルニ、同ク人中ニ在レトモ下ニ寒乞アリ、上ニ帝王アリ、其果報ノ勝劣、大ニ懸隔スルコトハ其宿業ノ善悪ニ由ルコトヲ明セリ。然フシテ後ニ弥勒ニ対シテ人道ノ勧誡ヲ明スニハ、五悪ヲ誡メ五善ヲ勧ム。其一一ニ於、悪ニハ自然三途無量苦悩ト云ヒ、善ニハ度世上天涅洱之道ト云ヘリ。其余善悪自然追行所生ト云ヒ、善悪之趣自然有是ト云ヒ、善悪禍福追命所生ト云、数之自然無得従捨ト云ヒ、天地之間自然有是雖不即時卒暴応至善悪之道会当皈之ト云ヘル等ノ文、枚挙ニ勝ス。而又、違逆天地不従人心ト云ヒ、神明記識犯者不赦ト云ヒ、妄損忠良不当天心ト云ヒ、天神剋識別其名藉ト云ヒ、如是之悪著於人鬼ト云、日月照見神明記識ト云、不畏天地神明日月ト云ヒ、如是衆悪天神記識ト云ヒ、諸善鬼神各共離之ト云ヒ、又其名藉記在神明ト云ヒ、天道自然不得蹉跌ト云ヒ、天道施張自然糺挙ト云ヒ、不仁不順悪逆天地ト云ヒ、天地之間五道分明ト云ヘル等ノ諸文アリ。天神ト云ヒ、天心ト云ヒ、天道ト云ヒ、天地ト云ヘルハ、天神ハ在天ノ神明、又左右両肩倶生天然ノ神ニモ通ス。天心ト云ハ天神ノ心意、天道ノ情致ナルヘシ。易ニハ天地之心ト云ヘリ。天地ト云ハ天地ノ神祇、又ハ天地間ノ二五ノ精気ニモ通スヘシ。天道ト云ハ蒼天、神天、業天ノ三天ヲ含ンテ、蒼天ハ陰陽五行生々化々ノ運、神天ハヨク其二五ノ運行ヲ主宰シテ禍福

ノ天政ヲ為ス。然フシテ神天ノヨク蒼天ノ運ヲ宰スル所以ハ偶然ニ非ス、此レ業天ノ条理確乎トシテ抜ヘカラサルニ由ル也。否サルトキハ好醜貧富等ノ賦命、一何ソ不平ナルヤ。好醜貧富等ノ賦命、平等ナラサル所以ハ、業天ニ於、善悪差別本ヨリ無量ナル故也。無量差別ノ善悪ノ因ニ随テ賦命スルトキハ、某人ニハ得意ノ物多ク来テ富足セシメ、某人ニハ失意ノ境多ク来テ逼迫セシムル等ノコトナキコト能ハサル也。是故ニ業天ノ理ハ万般ノ疑ヲ解ク所以ノ者也。夫業天ト云ハ、其名瑜伽論ニ出ツ。憬興ノ述文賛ニ経ノ天道ヲ釈シテ、天者業也悪業之道ナリ、故瑜伽ニ亦云「業天」蓋同レ此ト云ヘリ。瑜伽九三左ニ業天所悩之衆生ト説ケルヲ、倫記三上五右ニ釈シテ、世人多ク以為善悪由「天理」実由レ業説レ業為レ天ト云ヘリ。而此天道ヲハ法位ハタヽ業道ノ譬トス。故ニ曰ク、言「天道」者就「世俗」言レ等、如「天道」布行不レ可レ廃故ト。其世俗ノ天道トハ、経ノ音義ニ天道ハ日月星辰陰陽変化之謂「天道」ト、是ナリ。皆望西ノ鈔ニ引トコロナリ。憬興ノ如キハ、直ニコレヲ業道ノ天トス。故ニ随行入悪道ノ行ハ即業ナリ。追命所生ノ命モ亦業ナリ。逐「善悪業」以所レ生故ト云ヘリ。浄影ハ天道施張ノ文ヲ釈シテ天下ノ道理自然施立ト云。命ヲ以業トスルコト、李師政ノ内徳篇ニ、儒之所謂命也、仏之所謂業也ト云ヘリ。此レ彼儒ニ天理ノ物ニ賦スル勢イヲ指テ天命ト名ル者、スナハチ仏教ノ善悪ノ業、ヨク苦楽ノ果ヲ招クトスル者是ナリ。世教ニ於ハ、天命、天理ハタヽ其天然自然ナル者トノミ謂テ、何レノ事ノ上ニ斯ル天然ノ勢イ命也、天然ノ条理理也アリト云コトヲ論セス。今仏教ニ於ハ善悪二業ノ上ニ自然トシテ、善ニハ必興ルヘキ条理有テ、終ニ陞ラシムルコト火ノ自然ニ上リ挙ル理勢アルカ如ク、悪ニハ必亡フヘキ条理有テ、終ニ陥ラシムルコト水ノ自然ニ垂レ下ル理勢アルカ如シ。故ニ善悪二業ノ上ニ斯ル理勢有テ、正ク某レノ果ニ至ル、コレ天之道也。躰ニ約スレハ天理ト云ヒ、用ニ約スレハ天命ト云ヒ、此二ヲ合スレハ天道ナリ。其名義且ク異レトモ、其本躰ニ皈スレハ天然自然、不生不滅ノ真理也。無量寿ノ一経、数十箇ノ自然ノ字ヲ説テ、世間出世ノ事、皆本末自然ノ理ニ依ルコトヲ顕シテ、其私ナキコトヲ示スナリ。大日経二三左ニ若諸如来出現若諸如来不レ生諸法法爾如レ是住ト云ヒ、深密経ニハ四種ノ道理ヲ説ク中ノ法爾道理ト云ヘル者、正ニ是レナルヘシ。

諸法天然ノ真理ノマヽニコレヲ証リ、明ニスル者ヲ神トモ仏トモ聖人賢者トモ名ク。法躰ノ真理ハ聖神仏陀モ作ル所ニ非ス、但其未証未悟ノ者ノ為ニ、ヨク其天理ニ順シテ此レヲ説キ顕シテ、其真理ニ悟入セシムルノミ。率道之謂教ト云モ、其レ斯レノ謂歟。今其未悟ヲ悟トスニハ、勧善懲悪ヲ本トス。故ニ其善悪業ノ天道、真ニ畏ルヘキコトヲ顕シ、天下万物ノ理無辺差別ノ筋アレトモ、独リ善悪業ニ就テ天理ヲ談スル者ハ、教ヲ立ル所以ンノ至リナリ。今且ク其業道ノ状ヲ云ハヽ、先其業躰ハ思ノ心所ニシテ、ヨク身口意ヲ作動スル者也。此思ニ三位アリ、審慮ト決定トノ二位ハ意ヲ作動スル者ナリ。故ニ意業ト云。動発勝ノ一位ハ身口ヲ発動スル者ナリ。故ニ身業口業ヲ云フ。善境ニマレ悪境ニマレ、其境ニ向テ意ニ先ツコレヲ審慮シ、且コレヲ決定シ、而後身口ヲ発動スル也。身口ヲ以人畜等ヲ打罵セントスル者ハ、先其意ニ打罵スヘキノ境ヲ審慮シ、而其レヲ打罵セント決定ス。如是ニシテ、終ニ身口ニ其打罵ヲ行フナリ。身口ヲ以神仏等ヲ帰礼セントスル者モ亦然リ。カクノ如ク善悪ノ作業、皆内ノ思ヲ以躰トスルカ故ニ、其業事皆第八識ニ熏蔵ス。而第八識ハ恒時相続ノ心魂ナルカ故ニ、其熏蔵スル所ノ善悪作業ノ種子ヲ摂蔵シテ、長シナエニ失ハサル也。是ヲ業種子ト云フ。故ニ他時発生ノ縁ニ逢フテ、便チ苦楽ノ果ヲ発生ス。善業ハ楽果ヲ生シ、悪業ハ苦果ヲ生ス。此苦楽ノ果ハ其躰非善非悪ナル故、無記ト云フ。此無記ノ果ヲ前ノ善悪ノ因ニ対シテ異熟果ト名ル也。而此苦果楽果ノ中、各総報別報アリ。同ク人趣ニ生シタルカ如キハ総報ナリ。而於中一ハ富貴、一ハ貧賤ナルカ如キハ別報也。人趣ニ生ルヽ総因ハ同シ様ナル戒善ナレトモ、其中ノ行修ニ純雑アルカ故ニ、其別報ニ於勝劣アル也。鬼畜等ノ悪趣ノ中ノ因果ノ総別モコレニ准知スヘシ。カクノ如ク善悪ノ前業ニ随テ、今生ニ其レ〳〵ノ異熟ヲ受已リテ、其今日ノ異熟ノ果上ニ、或ハ善業ヲ起シ、或ハ悪業ヲ発ス。是ヲ等流果ト名ル也。今ノ善業ハ前ノ善業ノ因ヨリ生シ、今ノ悪業ハ前ノ悪業ノ因ヨリ生スル者ナルカ故ナリ。然フシテ異熟ノ身躰ハ今生ニシテ、尽ク藁ノ復生セサルカ如シ。善悪ノ等流果ハ即未来苦楽ノ果為因トナル也。粟粒ノ復来春ノ苗因トナルカ如シ。故ニ善悪ノ因果連綿トシテ生死断ヘサル也。若ヨク抜群ノ善

業ヲ修シテ有漏ノ善悪ヲ超度スルコトアラハ、輪回コヽニ於息ム。即コレ本性ノ天理ニ還源スルカ故也。是故ニ善悪業ハ心ヨリ発シテ、而モヨク復身心ヲ苦楽セシムル者ナレハ、業天ヲ畏テ此心ヲ慎シマスンハアルヘカラス。経ニ三界唯心造ト云ヒ、六道ノ依正皆業感ナリト説ルハ、便チ是レ業天ノ意ヲ顕ハス者也。問曰、書ニ天ノ作セル孽ハ猶違ルヘシ、自ラ作セル禍ハ逭ルヘカラスト云ヘリ。爾ルトキハ天ハ必シモ畏ルヘキニ非ルニ非スヤ。答、此説ハ人ノ唯天ニ任セテ自ラ善ヲツトムルコトヲ忘ルヽヲ警シムル者ナリ。又水旱等ノ事ハ、天地ノ人ニ誡メヲ垂ルヽ所ノ者ナレハ、是ヲ晏子ニ天教ト名ケタリ。サレハ其天教ヲ畏テ懈惰ヲ改ルトキハ、天災復災ヲナサヽル也。コレ違ルヘシトスル所以ナリ。若天教ヲ畏レスシテ自若トシテ改メサルハ、自業ノ其報ヲ招ク者ナリ。コレノカルヘカラサル所以ナリ。業天ヲ以コレヲ言ヘハ、天孽ハ前業ノ悪ノ感スル所ナリ。而今日ノ現業若善ナラハ、其現報便チ前報ノ禍イニ勝ツ。コレ違ルヘキ所以ナリ。爾ルニ現業若悪ナラハ、其現報亦災ニシテ前悪ノ業報ト相和シテ愈増盛ス。コレノカルヘカラサル所以ナリ。已上三教ニ通シテ三類ノ天理ヲ弁シ已レリ。更ニ仏教ニ就テ天躰ヲ言ヘハ、智論ニハ四種天ヲ説ク。世天国王、生天三界ノ天処ニ生ル、モノ、浄天四果ノ聖者、義天十地ノ菩薩ナリ。涅槃経ニハ更ニ第一義天仏也ヲ加テ五種天トス。爾ルトキハ天上天下ニ通シテ、天下ニ君タル天子、天上ニ在マス神明、界外界内ノ聖者仏菩薩羅漢等、総テ善悪ノ天理ニ明カニシテ、生々変化ノ道ニ達セル者、悉ク是レ天ニ非ルコトナクシテ、正大直方ニ物ニ応スルノ条理ヲ備ヘ玉ヘル者也。凡ソヨク天理ヲ明カニセント欲セハ、人々各自ノ一心上ニ求ムヘシ、心外ニコレヲ求ムヘカラス。伝子ニハ心ハ神明ノ主、万里ノ統ナリト云ヘリ。心ヨク神明ヲ動カスヘシ。心ノ善悪神明ノ禍福ヲ引キ、苦楽興亡等ノ万里、皆一心上ニ統摂セサルハナシ。故ニ荀子ノ天論ニハ天職不成シテ成リ、不求シテ得、天功日月四時陰陽風雨等物ヲ成ス。天情形具リテ六情コヽニ蔵ス。天官五根ナリ。天君心中虚ニ居シテ五官ヲ治ス、天養財其類ヲ養フ。天政禍福ナリ。ノ七種ヲ明セリ。中ニ於テ天職天功ノ二ハ所謂天ナル者ノ当分ナリ。天情以下ノ五ハ、皆人身上ニ具ハル者也。然フシテ此七ヲ併セテミナ天ニ属スル者ハ、天人別論スヘカラサルカ故也。云何トナレハ、前業後報其躰二ツ無ケレハ也。皆是各々一心上ノ自

業自得ナリ。但シ一切有情天地ノ間ニ共居セルカ故ニ、万物皆渾然トシテ見ユル者ハ、一堂中ノ万燈ノ如シ。是ヲ共業所感ト云フ。其実ハ各業所感ニシテ、而モ互ニ相礙サル者也。カクノ如ク業道ノ天理、応ニ随テ自然ニヨク物ヲ成スノ勢イヲ天職トシ、其勢イニ乗テヨク物ヲ成スハ天功ナリ。其ヨク物ヲ成スニ於テ、人物形ヲ受テ便チ喜怒哀楽等ノ情アリ。コレ有情ニシテ非情ニ非ル所以ナリ。天情コヽニ於、第八阿頼耶識ヲ寓シテ第七識ヲ兼ヌ。而此有情ノ身上、自然ニ眼耳鼻舌身ノ五根ヲ具フ。此五根各自ニ色声香味触ノ五塵ニ向フコトヲ職サトルヲ五官トス。而此五官ノ向フ所ノ五塵ノ是非ヲ裁制スル者ハ六識心王ナリ。是ヲ天君ト云フ。如此有情一身上ノ事具リテ、而有情ハ衣食住ノ事無ンハ、ヨク生育スルコトナシ。於是粟帛等ノ生育ノ具備ハルハ、コレ天養ナリ。然フシテ人々皆各自ノ職掌アリ。其職掌ヲ守ルハ生育ノ具ヲ裁スル所以ナリ。生育ノ具ヲ制セスシテ衣食住スル者、コレヲ游惰素餐ノ民トス。游惰素餐ノ民ハ啻王公ノ許サヽル所ノミナラス、既ニ根本天職ノ容ザル所ニシテ、便ハチ悪業ノ苦報宛然ト見ユ。貧賤ニ落テ家ヲ亡シ、身ヲ亡ス、是也。若ヨク各自ノ職掌ヲ守レハ、自然ニ生活ノ具備ハリ、衣キルヘクシテ衣、食フヘクシテ食ヒ、住スヘクシテ住ス。カクノ如クナルトキハ、唯国家ノ良民ナルノミナラス、根本天職ノ許ス所ニシテ、便ハチ善業ノ楽果宛然ト見ユ。富貴ニ至リ、家ヲ興シ、身ヲ興ス、是ナリ。カクノ如ク苦楽禍福ノ賞罰ハ、皆是己カ善悪ノ行業ヨリ出ツ。コレヲ天政ト云フ。是故ニ人ヨク其心天君ヲ正フシテ視聴言動五官ヲ慎ミ、喜怒哀楽天情其宜ヲ得テ、ヨク各自ノ本業ヲ修メ天養、禍福ノ源天政ヲ敬慎スレハ、真実ノ天理天職天道ニ契ヒテ、善悪勧懲ノ道ヲ遵守スルノ良民也。右ニ弁スル所ハ、荀子ノ当意ニハ非ルヘケレトモ、且ク奪胎換骨シテ業天ノ正理ヲ彰ハス者也。然レトモ蒼天ノ施行、神天ノ主宰ハ、咸是レ一切衆生ノ業天ノ公道ニ従セテ、些モ私心ナキ者ナレハ、上天ノ施行、主宰ノ神妙、毫モ謬リナキコトヲ知ント欲セハ、業天ノ本ヲ知スンハアルヘカラス。否ラサルトキハ、上天ノ施為ニ慊タラスシテ上天ヲ誣フルニ至ン。聖人何ソ不怨天ト云ンヤ。苟モヨク業天ノ原ヲ了スレハ、実トニ能ク天心ヲ見ルニ足ル。災禍ニ遇フトイヘトモ、何ソ天ヲ怨ムコトカ之有ン。自

業自得ノ理ヲ知レハ也。問曰、業道ヲ以天トスルトキハ、但是有情ノ人体ニ在テ天地ノ天ニハ非ス。爾ルトキハ上天上帝ト云ヘルカ如キ、若天地ノ天ニ非レハ、何ソ上ト云ヤ。答、方隅ノ高卑ヲ以論スルトキハ、業天ハ固ヨリ関ラサル也。但其品類ノ貴賤ヲ以、上下ヲ語レハ、業道自然ノ天理ハ最モ敬畏セスンハアルヘカラサル者ナル故、コレヲ尊ンテ上トシ、而其自然ナル義ニ約シテハ上天ト云ヒ、其感果ノ裁制ニ約シテハ上帝ト云ナリ。宋儒ノ太極無極ノ天ヲ論スル如キモ、下地ニ対シテ上天ト云フニハ拠ラス、太極ノ理ハ高卑ノ方隅ナキ故也。但シ世教ニハ業天ノ本ヲ略シテ唯施行ノ本拠蒼天、主宰ノ神明ニ就テ言ヲナセルカ故ニ、方隅ノ上下ヲ以シテ可ナリ。各其約就スル所異ルカ故ニ、互ニ相違ニ非ル也。

○次ニ人道ヲ弁セハ、此中初ニ名躰ヲ釈シ、後ニ相状ヲ明スヘシ。初ニ名躰ヲ釈セハ、仏教ニ於、六趣ヲ立ルニ拠ラハ、人趣ハ其一ナリ。スナハチ今日我等所受ノ五蘊仮合ノ身ナリ。説文ニ天地之性最貴者也ト云、礼運ニ人者天地之徳、陰陽之交、鬼神之会、五行之秀気也ト云ヘリ。人ト名ルコト、法華文句四之三四十四丁、法苑珠林八十丁、名義集五三丁ニコレヲ釈セリ。今且ク名義集ニ依ルニ、梵名ニ二アリ。摩兎舎南ト云ヘハ、此ゝニ訳シテ人ト云フ。而人ハ忍也違順皆ヨク安忍ス。仁也ノ義ナリ。若シ摩兎賒ト云ヘハ、此ゝニ意ト云フ。此中意ト息意ト慢トノ三義アリ。而此摩兎沙ノ名ニ、毘曇論ニハ聡明、為勝、意微細、正覚、智慧増上、能別虚実、聖道正器、聡明業所生ノ八義アリ云々。前ノ人ノ名ニ就テ、礼記ニ人者天地之心五行之端、周書ニ惟人万物之霊、孔安国ノ云天地所生惟人為レ貴ト云ヘリ。其業因所作、皆五戒ナルコト云云。已上名義集道トハ六道ノ通称ヲ以言ヘハ、道モ亦趣ノ義ナリ。珠林ニ毘曇論ヲ引テ、趣者名レ到ニ亦名為レ道謂彼善悪業因道能運到二其生趣処一故名為レ趣亦可下依二所造之業一趣二彼生処一故名為上趣又趣者皈向之義謂所造業能皈二向於天乃至地獄一也ト。此義ハ六道ニ通スル者ナルカ故ニ、今ノ取ル所ニ非ス。今ノ取ル所ハ、人之人タル所以ノ正道ニシテ、又人理トモ云フ。梵ニ菩薩ト云ヲ、新訳ニハ覚ト称スレトモ、旧訳ニハ道ト云ナリ。凡ソ道ト云ハ依止ノ義、遊履ノ義ニシテ、世間ノ路ノ人ノ行歩スルニ依止トシテ遊ヒフミユキ通フノ者ナルカ如クナル者也。行ク人アリ。行クヘキ路アリ。行テ至ル処ノ所アリ。能修ノ人、其正智正行ヲ

フミ行フテ、終ニ諸法ノ正理ニ通達スル也。今人道ト云ハ、人ハ所謂横目ノ民（荘子）、一切裸虫ノ長（孔子家語）ナル者ニシテ、五蘊仮合ノ身躰ヲ指ス。而其横目ノ民タル者ハ、横目ノ民タル所以ノ常道ナカルヘカラス。其人身ノ必依ルヘキ所ノ道ヲ明ス者ナレハ、人之道ト云フ。依主釈也。次ニ相状トハ、人道ハヨク天理ニ順シ、天理ニ契ヒ、天理ヲ証得スル者也。仏教ニ談スルトコロノ仏菩薩等ノ法性ノ真理ヲ契証スル義ハ、今姑ク舎ク。人身ノ当然タル五戒五常（五倫ヲハ五常トモ云フ、尚書ノ注等ニ見ユ。）ノ道ヲ以、善悪業天ノ理ヲ敬畏シ、主宰施行シ玉ヘル所ノ神天ノ理ヲ尊崇シテ、ヨク彼天理ニ順スルヲ人道ノ相トスル也。無量寿経ニ違逆（シテ）天地ニ不レ従ニ人心ニ一ト云ヘルカ如キハ、人道ヲ失フ者ヲ誡ル也。易ニ順ニ于天一而応ニ乎人一ト云ヘルカ如キハ、其人道ノ正ヲ示ス者也。又易ニ天道（ハ）虧テ盈而益レ謙人道（ハ）悪テ盈而好（ム）レ謙（ヲ）ト云ヘハ、物ノ満盈センコトヲ望ムハ人情ノ常ナレトモ、而モ天ノコレヲ虧ク所ナレハ、人其多欲ヲ悪ンテ寡欲淡白ヲ甘ンスヘシ。否ラサルトキハ、天ヨリ欠キ奪ハン。又ヨク謙譲ヲナスコトハ、人情ノ欲セサル所ナレトモ、而モ天ノコレヲ愛（メテ）テ益シ玉フ所ナレハ、人ヨク謙退ヲ好ミテコレヲ行フヘシ。損スレハ便ハチ是益ス所以ニシテ、易ニ損益ノ卦ヲ立ル者ハ此謂也。タヽ其取ルノ取タルコトヲ知テ、与ルノ取タルコトヲ知ラサル（説苑）ハ、即是天ノ盈ヲ欠キ、謙ニ益ス所以ノ理ニ違逆スル者ニシテ、而モ人心ニ従ハサル者ナリ。世上ノ人心ハ多クハ、己レヨク自損シテ他ヲ益スコト能ハスシテ、唯他ヲ損シテ己レヲ益スコトヲノミ欲スル者ナレトモ、他ノヨク自損シテ他ヲ益スヲ見テハ、之ヲ貴ンテ奇特ノ想ヲナシ、他ノヨク自益シテ他ヲ損スルヲ見レハ、コレヲ賤ンテ下劣ノ想ヲナス也。是故ニ衆人ノ賤ンスル所ハ、天モ亦コレヲ賤ンシテ盈ヲ欠キ、衆人ノ貴フ所ハ天モ亦之ヲ貴ンテ謙ニ益スナリ。サレハ人道ト云ハ、ヨク人欲ノ私ニ克テ、天心ノ公ニ奉スルヲ順ニ于天一応ニ乎人一ノ正道トスル也。然フシテ今、其人道ノ躰ヲ詳セハ五倫ヲ以本トス。而其五倫ハ五所ニ散在スル者ニ非ス、一人上ニ具スル者ナリ。此身無ンハ已（ママ）ンナン。既ニ此身アリ、故ニ父子ノ道アリ。此身アルカ故ニ君臣ノ道アリ。夫婦兄弟朋友ノ道アル也。サレハ人身ヲ存スル者、五倫ノ道ハ長（トコシナエ）ニ欠クヘカラサル者也。此五種ヲ呼テ倫ト名ルコトハ、

倫トハ類也。己カ一身ヲ以、五所ニ望ルニ、此五類アルヲ五倫ト云ナリ。而此五倫ヲ釈スルニ二義アルヘシ。一ニハ五倫ト云ハ、苟モ其身アレハ其所望ニ随フテ、便ハチ立ツ所ノ者也。サレハ不慈不孝ノ父子ナリトモ、即父子ノ倫也。不礼不忠ノ君臣タリトモ、コレニ事ヘコレヲ使フトキハ、即君臣ノ倫也。乃至欺誑不信ノ朋友モ、互ニ恒ニ親近スル者ハ朋友ノ倫也。爾ルトキハ五倫即道ナルニハ非ス。人道ト云モ人即道ニ非ルカ如シ。サレハ五倫ノ道ト云ハ、誠信ヲ以、仁義礼智ヲ行フヲ云フ。五倫ハ道ノ寓スル所、仁義礼智ハヨク其五倫ノ際ニ寓スルノ道也。スナハチ人ノマサニフミ行フヘキノ者也。而人コレヲ其身ニ得テフミ行ヘハ、即亦徳ト名ル也。五倫ノ中ノ一一ニ皆此四徳ヲ具シテ、父子ノ間ニ具スル四徳ヲハ総テ親ト名ケ、而父ノ四徳ヲ慈ト名ケ、子ノ四徳ヲ孝ト名ク。君臣ノ間ニ具スル四徳ヲハ総テ義ト名ケ、而君ノ四徳ヲ礼ト云ヒ、臣ノ四徳ヲ忠ト云フ。余ノ三倫ニ在ル所ノ四徳モ之ニ准知スヘシ。サレハ此五倫四徳相依テ人倫ノ道ヲ成ス。此レ猶織機ノ経緯ノ糸相依テ一幅ノ錦ヲ成スカ如シ。五倫ハ経(タテ)ノ糸ノ如ク、四徳ハ緯(ヨコ)ノ糸ノ如シ。一身ヨク五所ニ向テ親義別序信ノ道ヲ全フスレハ、即一身上ニ五彩一幅ノ真錦ヲ成ス。サレハ啻身ヲ立テ故郷ニ皈ル栄ノミナラス、其徳実ニ天下後世ヲ耀ヤカスヘシ。豈画錦ノ大ナル者ニ非スヤ。二ニハ人倫即道ナリ。父子ノ間、若親ナクシテ不慈不孝ナラハ父子ノ倫ニ非ス、即禽獣ノ行ヒ也。君臣ノ間、義ナクシテ不礼不忠ナラハ君臣ノ倫ト云ハス、便ハチ亦禽獣ノ行ナリ。夫婦、長幼、朋友ノ際モ亦然リ。而父ハ父タラストモ子ハヨク子タルノ孝ヲ尽シ、君ハ君タラストモ臣ハヨク臣タルノ忠ヲ尽ス等ナラハ、臣子ノ道ニ於其倫ヲ得タリ。臣子ハ臣子ノ道ナクトモ君父ハ君父ノ道ヲ正シフスレハ、君父ニ於其倫ヲ得タリ。夫婦、兄弟、朋友ノ道モ亦復然リ。是故ニ親義別序信ノ道有テ、方ニ五倫ト名ク。否(シカ)ラサルトキハ廃倫ノ禽獣ナリ。故ニ中庸ニ五倫ヲ指テ天下之達道也ト云ヘリ。問、若爾ラハ、何ソ彼ニ知仁勇ノ三徳ヲ指テ、五倫ヲ行フ所以ントスルヤ。答、今云フ所ノ五倫トハ、之レヲ行フ所以ンノ者ヲ併セテ言フナリ。若コレヲ行フ所以ノ者ヲ欠クトキハ、即倫ト名ケサル也。若コレヲ行フ所以ノ者ヲ欠クトキハ、親義別序信ノ義立(マヽ)ヽス。親義

別序信ノ五箇ノ差別アルカ故ニ、人倫ヲ分テ五類トセリ。若此差別ナキトキハ、唯是渾然タル禽獣ナリ。而親義別序信ノ立ツ所以ハ、之ヲ行フノ達徳有レハナリ。問曰、古来仁義礼智信ノ五ヲ以、五常ト名テ、人道ヲ明ヲ要トセリ。今何ソ五倫ニシテ足レリトスルヤ。答、孔子ハ唯仁ヲ以主トシ、孟軻ニ至テ仁義ト云ヒ、又仁義礼智ト云ヘリ。漢儒以来、更ニ信ノ一ヲ加テ五常ト称セリ。而信ノ一ハ、朋友信アリト云フ信ノ如クニハ非ス、唯是レ誠実ノ謂ニシテ、仁義礼智ノ四ヲ真実不虚ニ行フヲ謂フ。中庸ニ誠ヲ指テ知仁勇ノ三ヲ行フ所以ンノ者ハ一誠也也ト云ヘルト同意ナリ。故ニ信ノ一ハ仁義礼智ノ四ノ通徳ナレハ、仁義礼智ノ四ト角立スヘキニ非ス。故ニ真実ノ仁義礼智ヲ立レハ、信ノ一ハ別立セスシテ可ナリ。然フシテ其仁義礼智モ亦、知仁勇ノ如ク五倫ヲ行フ所以ンノ者也。若此四徳無ンハ親義別序信ノ道立サル也。是故ニ道徳並ヒ具シテ、方ニ人倫ト名ルコトヲ得ルナリ。問曰、業天ノ理ニ任テ神天コレヲ主宰シ、其主宰ニ従フテ蒼天コレヲ施行シテ、生々化々、変化無窮ナリ。人道ヨク天理ニ順スト云ハヽ、人道モ亦変化無窮ナリヤ。答、人道ハ一身上ニ五倫ヲ具スレハ、唯其一ニ兀立スヘカラス、其対スル所ノ五所ニ従フテ随宜ニ変化セサルヘケンヤ。猶天ノ四時ニ従フテ随宜ニ陰陽変化スルカ如シ。古語ニ行ハ方ナランコトヲ欲シ、智ハ円ナランヲ欲スト云ヘリ。仁義礼ノ行ハ須ラク方ナルヘシ。而其智ヲ円転シテ、ヨク随宜ニ仁義礼ヲ施行スヘシ。其父母ニ向フニハ、父母ニ向フノ仁義礼アリ。其君ニ向フニハ、君ニ向フノ仁義礼アリ。夫婦、兄弟、朋友、臣子ニ向フノ仁義礼モ亦然ナリ。大学ニ明ス所ノ絜矩ノ道、上下四旁ニ随宜スルノ状知ルヘシ。身ヲ修メ家ヲ斉フルノ変化カクノ如シ。而其国ヲ治メ天下ヲ平カニスルノ変化モ、亦カクノ如クナルヘシ。事ニ従リ、時ニ応シ、機ニ臨ミ、勢イニ乗シテ其宜ヲ制スヘシ。是故ニ方今維新ノ政令モ旧ヲ吐キ新ヲ呑テ、庶クハ善ク億兆ヲ保安セントノ尊慮ニ出ル者、実ニ上天生々ノ徳ニ合スル者也。

瑕丘宗興著三条叢説巻之三

瑕丘宗興著三条叢説巻之四

三条広説第三

○第三条ニ於、先総意ヲ申ヘハ、皇上ハ所奉、奉戴ハ能奉ナリ。皇上ノ奉戴ト云フ、依主釈ノ意ナリ。朝旨ト遵守トノ能所ノ義モ亦然リ。此二重ノ能所ハコレ所令ナリ。セシムヘキトハ、其能令ヲ勧ルノ意也。而此二重カ為ノ能令ハ、此一条ノ躰事ナリ。故ニコレヲ結シテ事ノ言ヲ置ク也。次ニ別シテ文義ヲ釈セハ、皇上トハ皇国歴代ノ皇帝ニ通スル名ナレトモ、今ハ別シテ今上皇帝ヲ指スナリ。皇トハ字典ニ有天下者之通称故爾雅ノ釈詁ニハ君也ト云ヒ、白虎通ニハ号之為皇者煌々人莫違也ト云ヒ、独断ニハ皇帝ハ至尊之称也云々ト云ヘリ。而其字訓ハ大也天也中也光也弘也美也ト云ヒ、又匡正也荘盛也美盛也等云ヘリ。サレハ其功徳美大光荘ニシテ、ヨク天ニ則トリ、天下ニ君臨シテ万民ヲ匡正シ玉フ者也。和訓ニスヘラキト云ハ、四海ヲ統御スルノ君ト云フノ意ナルヘシ。上トハ今ハカミト訓シ、ウエト訓スルノ意ニシテ、アガリノボルト訓スルノ意ニハ非ス。死活体用可知。故ニ字典ニ在上之上対下之称崇也尊也ト云。便ハチコレ人君ノ称ナリ。故ニ広韻ニハ君也太上極尊ノ称ト云ヒ、独断ニハ上者尊位所在但言上不敢言尊号ト云ヘリ。奉戴トハ、字典ニ奉ハ承也。曲礼ニ長者与之提携スルトキハ則両手奉長者之手ト云ヘリ。又、与也献也養也等ノ訓アレトモ、今ハ承ノ謂ナリ。戴トハ、字典ニ説文ニ分物得増益曰戴、一曰首戴也、広韻荷戴也、書曰衆非元后何戴ト云ヘリ。サレハ奉戴トハ君上ヲ大切ニ思フノ情、両手ニテコレヲ承ケ、頂上ニコレヲ戴クカ如クニスルヲ謂フ。而物ノ増益ヲ得タルカ如クニ思フノ意モ此中ニ存セリ。便ハチコレ旱荒ニ甘雨ヲ得タルノ情ナリ。然フシテ奉戴ノ熟語ハ事類全書雑集ニ奉事云奉戴、左伝曰我与蔡人奉戴厲公ト云ヒ、又晋書戴記符堅伝上〔ニハ〕慕容垂燕趙之間、皆有奉戴之心ト云ヘリ。尚書ニハ民奉其君愛之如父母ト云ヒ、衆非元后何戴ト云。此レハ二文併セテ其語ヲ成ス。此余欣戴史記ニ一一武王上云。翼戴正書ニ一一天子盛也。戴周書ニ下民怨弗受也。ト云。龕戴統稽古略ニ建文帝中外一一上ト云フ。愛戴一一上ト云ヘリ。等ト云ヘリ。若単ニ戴ヲ言フ者ハ、六韜ニ万姓戴其君如日月ト云ヒ、尹文子ニ万民願戴ト云ヒ、文子ニ、古之聖王天下推而不厭戴而不重ト云ヒ老子ニ聖人処上而民不重ノ意、典語ニ、御政則民戴其化ト云ヒ、周書ニ天子維民父母徳則民戴否徳讐ト云ヘル等ナリ。前ニ挙ル正書等ヨリ下、皆群書治要ニ出ス所ニヨル。我カ

神典ニ在テハ倭姫世紀ニ従レ此倭姫命奉レ戴二天照大神一而行幸ト云ヒ、又倭姫命波皇太神乎奉レ戴天小船乗給ト云ヒ、又宝基本紀ニ爾時伊巳呂比命等奉レ頂二正躰一等ト云ヘルハ、其感戴ノ情ヲ喩顕スル者ニ非スシテ、其頂戴ノ実ヲ直示スル者ナルヘシ。今ノ取ルトコロハ、タヽ其生民感奉ノ情ヲ言フナリ。夫皇上ノ奉戴セスハアルヘカラサル所以ノ者、按スルニ三意アリ。一ニハ万姓ノ惣統ナルカ故ニ、二ニハ万民ノ父母ナルカ故ニ、三ニハ神勅ノ一系ナルカ故ニ。夫皇ハ大也、君也、慎子ニ大君ハ大上也ト云ヒ、老子ニ域中有二四大一ト云ヘリ。天地ト大一道トニ並ンテ大ナル者ハ大君ナリ。コレヲ戴カサルコトヲ得ンヤ。而大君ノ大ナル所以ハ、ヨク万民ヲ治ムレハ也。書ニ曰、天生レ民有レ欲無レ主乃乱ルト。万民各其所欲ヲ放マヽニスレハ、流蕩ユイテ反ルコトヲ忘ル。故ニ天、君ヲ立テ、其万民ノ欲ヲ節シテコレヲ治メシムル者ナリ。君ノ無ンハアルヘカラサル所以ノ者コヽニ在リ。サレハ君モシ民ニ君タル所以ノ徳ヲ棄テハ、民其否徳ヲ悪ンテコレヲ讐トシ、コレヲ怨テ上ヲ龕戴セサルモ免レザル所ナリ。是故ニ今我カ皇上ノ如キハ、遠ク就一而一治一焉ノ神約ヲ守リ、億兆保安ヲ心トシ玉ヒ、民ノ苦楽利不利ヲ問ハンカ為ニ、一令一禁皆百官ト合議シ、一事有ル毎ニ輒チ随テ天下ニ告示シ玉フ。民ノ父母タル所以コヽニ在リ。万姓コレヲ戴テ重シトスヘカラサル者也。然ルニ因循頑固ノ民、腹非面従シテ悦服セサルトキハ謂ツヘシ、民ノ信向欠タリト。爾ルトキハ兵アリ、食アリトイフトモ、何ヨク天下ヲ保スルニ足ン。兵食信ノ三ハ天下ヲ保スルノ必用ナリ。而已ムコトヲ得スシテ之ヲ去テハ、兵ヲ去テ亦食ヲ去ツヘシ。唯其去ツヘカラサル者ハ独リ民ノ信ナリ。孔子、子貢ノ問ニ答フルトコロ爾リ。サレハ万民頑固ノ心ヲ解イテ信服奉戴ノ情ヲ生セシメスンハアルヘカラス。是教導ノ大関節ナル所也。問曰、今云トコロノ三意、凡ソ君王ハ固ヨリ万民ノ惣統ニシテ、其父母タル所以ンナレハ、恩威並ヒ存シテ、民ノ敬シ且愛スル所ノ者ナリ。斯義ニ於ハ、異邦ノ君トイエトモ皆然リ。其神勅ノ一系ナルニ至テハ、我カ皇統独無比ノ尊勝ナリ。然リト雖、若永ク一系ノ皇統ヲ存セハ、何ソヨク歴代スヘテ聖徳ノ君ナルコトヲ保センヤ。武烈天皇ノ如キヲ奈何ン。他日若武烈ノ如キ君踵ヲ継テ出玉ハヽ、民ノ塗炭桀紂ノ世ヨリモ甚シカラン。

爾ルトキハ却テ放伐革命ノ国躰ヲ以貴シトスルニ非スヤ。若強テ武烈ノ君ヲモ奉戴セシムトナラハ、神明ノ定メ玉フ所、豈不仁ノ至リニ非ヤ。答、今云所ハ一系ニシテ而モ惣統、父母ノ恩威ヲ具セル者也。独リ一系ノ皇統ニ誇ルニ非ス。神意固ヨリ然リ。可王ノ地ニ王タラシムハ惣統ノ意也。就而治レ焉ヲハ父母タルノ意ナリ。天壌無窮ハ一系ノ謂ナリ。而ヨク一系無窮ナル所以ンハ、可王ノ地ニ惣統シテ、ヨク父母トナリテ治ルカ故ナリ。サレハ神意本ヨリ三意ヲ具足シテ一系ノ国躰ヲ立玉ヘル者ニシテ、其可否ヲ問ハス、タヽ其子孫ヲノミ守株シ玉ヘルニハ非ル也。故ニ苟モ皇脈ナルトキハ、或ハ草莽ニ隠レ玉ヘルヲ探リ求ルアリ、顕宗帝是也。コレ有徳ヲ登庸スルノ意ナリ。武烈天皇ノ如キハ、幸ニ大宝ヲ獲玉フトイヘトモ、在位僅ニ八年ニシテ、絶テ其後無シ。コレ神天ノ其年寿ヲ奪ヒ、其血統ヲ絶チ玉フ者ナラン。抑神孫一系ノ国躰ヲ立玉フ者ハ、其本人心固結ノ為ナリ。国ヲ治ムルノ要、人心ヲ固結スルヨリ大ナルハナシ。他ノ革命ノ国ノ如キハ、民ノ豪傑ナル者往々非望ノ心ヲ生ス。漢高ノ尚微ナリシトキ、秦皇ノ行幸ヲ見テ大丈夫マサニカクノ如クナルヘシト謂ヘルカ如キ是ナリ。カクノ如クナルトキハ、其民ノ皈向スル所一定セスシテ、其国乱レ易シ。爾ルニ国躰本ヨリ一系ナルトキハ、臣民ニ在テ非望ノ野心ヲ生セス。故ニ馬子ノ如キ、一朝ノイカリニ其君ヲ弑スルニ至ルモ、猶天位ヲ望ムコトナシ。将門ノ如キハ一官ヲ求テコレヲ得サルカ為ニ、枉テ僭上ストイヘトモ、本ト大志アルニ非ス。コレ其一系ノ国躰、人心一皇統ニ固結シテ覬覦ノ党ナキ所以ン也。夫仏教ニ於蓋亦一系ヲ貴フ。故ニ王法政論経及瑜伽論ニ王ノ十種ノ功徳ヲ説クニ、種姓尊高ヲ以、第一ノ功徳トセリ。凡ソ革命ノ新主ハ必種姓尊高ニ非ス、種姓ノ常ニ尊高ナルハ、独リ一系ノ皇統ニ在リ。而更ニ得大自在等ノ九徳アルハ、便ハチ惣統父母ノ二意ニ過キス。爾ルトキハ三意十徳ヲ全スル者、真ニ戴クニ堪タル者也。今我カ皇上、此三意十徳ヲ備足シ玉フ、何ソ奉戴セサルヘケンヤ。

○朝旨遵守トハ、朝トハ説文ニ且也ト云、中論治要ニ出。ニ曰帝者昧旦而視レ朝南面聴天下ト云ヘリ。昧旦トハ暁天ナリ。天子毎晨早ク其廷ヘ出御マシマス故、其廷ニ名ケテ朝廷ト云。因テ百官モ亦晨ヲ陵イテ参内スルヲ、

コレニ朝スト云フ。待漏院ノ記ヲ読テ頗ル其状ヲ想フ。朝ヲ以其廷ニ名ルコトハ、其政事ヲ日々ノ先務トシ玉フノ意ヲ彰ハス者也。今コヽニ朝ト云ハ、スナハチ朝廷ヲ指ス也。旨トハ説文ニ美也、玉篇ニ意也、志也。サレハ意志ノ皈趣スル所、コレ其要ナルカ故ニ、味ノ尤甘美ナルカ如シ。正字通ニ凡天子諭告臣民曰詔旨、書叙指南ニ帝意云天旨ト云ヘリ。今朝廷ニ決定シ玉ヘル所ノ旨趣ヲ朝旨ト云フ。スナハチ天下ニ布令シ玉フ所ノ条科是ナリ。但シ朝廷朝憲ナント云ハスシテ、殊ニ朝旨ト云ヘル者ハ、蓋深意ノ在ナラン。謂、其布令シ玉ヘル所ノ事、上ニ於、更ニ言外甘美ノ味フヘキ有リ。且ク彼租税賦役ノ事ノ如キ、直チニ其事ニ関カル者、一往コレヲ悦ハサルアリ。而退テ之ヲ察スルトキハ、便ハチ此レニ平等一視ノ旨アリ。又民ヲシテ其業ヲハケマシムルノ旨有ル等是ナリ。苟モ善ク此旨ヲ解セハ、其遵守ニ勇マサルコトヲ得サル也。第一条ニ敬神愛国ノ旨ト云ヒ、コヽニ至テ朝旨ト云ヘル者、皆其意ノ存スルナルヘシ。遵守トハ、遵ハ説文ニ循也、広韻ニ率也、行也、習也ト云フ。サレハ其有ルマヽニ循ヒ、其レニ引マハサレテ習ヒ行フナリ。書ノ洪範ニ遵王之路遵王之道ト云ヘリ。守トハ説文ニ守ハ守官也、従宀寸法度也ト云ヒ、玉篇ニ収也、視也、護也ト云フ。サレハ官府ノ各其法度ヲ執持シテ違ヘサルカ如ク、コレヲ取ヲサメテ散漫ニセス、タヽ其事ニ於目ヲ放タスシテ衛護スルノ意ナリ。是故ニ造次顛沛唯朝旨ノ方規ニ注意シテ、コレニ違戻セサランコトヲ要スルヲ、朝旨ニ遵守スト云ナリ。遵守ノ熟語ハ、申鑑ニ遵礼守法ト云フ、コレ其文ナリ。康熙字典ノ序ニ官府吏民亦有所遵守ト云ヘリ。問曰ク、朝旨ハ本ト皇上ヨリ出ル也。サレハ皇上朝旨何レカ其一ニシテ足ルヘシ。何ソ雙ヘ挙ルヤ。答フ、皇上奉戴ハ国躰ヲ尊フ所以也。朝旨遵守ハ政躰ヲ尚トフ所以也。然フシテ其政躰、若憲法無クシテ賞罰等ノ事、一ニ皇上ニ決セハ、万姓必信服セサル所有ン。万姓ノ心服セサルハ国ノ乱ルヽ所以ナリ。故ニ天子ハ上ニ在テ、而モ法ヲ以コレヲ御シ玉フトキハ、民服セサルナシ。皇上朝旨並ヘ挙ル者ハ之レカ為ナリ。慎子ニ此旨ヲ明シテ云々。治要世七十三云々、同四十九廿丁九伝子云々。問曰、方今維新ノ御政百事ニ就テ沿革アリトイヘトモ、民多ク其沿ヲ随喜シテ其革ヲ疑惧スルニ似タ

リ。若古今ノ沿革ニ喜惧異ルトキハ、啻朝旨ヲ仰信セサルノミナラス、併セテ皇上ヲ尊奉セサルニ至ン。其レコレヲ奈何。答、制可随時ハ古今ノ無カルヘカラサル所ノ者也。伝子ニ曰、以異到同者天地之道也因物制宜者聖人之治也ト云ヘリ。（群書治要ノ中、典語淮南子等ノ諸書ニ此ヲ明セリ。）時勢ニ従フテ其ノ変革ノ政ヲ施スハ天地ノ化ニ順セリ、何ノ不可ナルコト有ン。上旨ハ本ヨリ保安ノ策ニ出ルトイヘトモ、其深意ニ至テハ、民ハヨラシムヘシ、知ラシムヘカラサル者也、何必シモ民ノ是非スルニ屑々タランヤ。然リトイヘトモ民ノ信仰セサルハ其事原ヲ了知セサルト、其事実ニ猶預スルトニ出ツ。而不了ト猶預ト同ク是疑情也。（涅槃経云。）疑ト信トハ、本是明暗ノ異リナリ。疑情ヲ払ハスンハ何ソ信向ヲ得ン。疑情タニ消除スレハ、明信ハ自然ニ至ン。仏教ニ信疑ノ勧誡ヲ要トスルハ之レカ為ナリ。故ニ其事ノ生起本末ヲ詳ニスレハ、疑信忽ニ所ヲ易ヘテ、大疑下ノ大信ハ不疑上ノ信ヨリモ深大也。サレハ維新ノ生起本来ヲ詳陳シテ民心ニ徹到セシメハ、万姓ノ渇仰従前ニ倍蓰セン。此レ教導者ノ皇政ヲ輔ル所以ノ最要ナリ。今其方法ヲ陳セハ、哀哉凡愚無明ニ覆ハレテ現前ニ姑息シ、啻心魂前途ノ沈淪ヲ知サルノミナラス、抑亦一身末路ノ狼狽ヲ察セス。夫レ好ク現在ノ一身ヲ安スル所以ハ、君主ノコレヲ治ムル有レハ也。若君主ノヨク之ヲ治ムル無ケレハ、ヨク一身ヲ保スル無シ。故ニ古ニ曰、主ハ国之心也、心治マルトキハ百節皆安シ、心擾ルヽトキハ百節皆乱ルト。（淮南子）サレハ人ノ一身ハ心ト支躰ト相依ラスンハ一身ヲ全セス。国モ亦然リ、若心タル君ヲ失スルトキハ、支躰タル民何ソ安カランヤ。是故ニ今日ニ在テ各自ニヨク其身ヲ全シ、其国恩ノ辱キヲ慶フニ、其須知二アリ。一ニハ君民ノ分斉ヲ了シ、二ニハ一新ノ生起ヲ知ヘシ。ヨク此二ヲ了知スレハ、国家ノ事ニ於毫モ疑慮ナク、大信ヲ皇国上ニ生シテ、上下コモ〳〵権利義務ノ大益ヲ成シ、万民各自ノ安全ヲ得ヘシ。一ニ君民ノ分斉トハ、先ツ君上ハ是レ天下ヲ家トシ、万民ヲ子トシ玉フ者也。サレハ天下ノ万民ハ君上ノ家内ニ処シテ、君上ヲ以其父母トシテ事フマツル者也。爾ルニ万民各自ニコレヲ誤テ、君ノ家ハ彼コニ（ママ）在リ。我室ハ此ニ在リ。君ト我トハタヽ上下貴賤ノ異ナルノミ抔ト妄認シテ、彼此上下対待ノ見ニ止マルカ故ニ、唯各自ノ権利ノミ放

マヽニセントシテ、曾テ君上ニ奉事スヘキノ義務ヲ思ハサル也。其分斉ヲ了知セサルコト尤慚愧スヘシ。夫レ下民ノ一室ヲ治ムルスラ、其主翁タル者ハ内外万事及其眷属ノ為ニ心ヲ悩マス。而幼稚ノ者ハ一ニ其労ヲ知ラス、稍成長スル者ハ聊カ之ヲ知ル。成長ノ身ニシテコレヲ思ハサル者ハ、固トニ人子ニ非ル也。瑣々タル一室猶カクノ如シ。況天下ヲ以家トシテ、万民ヲ以子トシ玉ヘル者ヲヤ。何ソ其労悩ノ大ナルコトヲ恐察シ奉ラサル。慶応四年戊辰三月ノ勅詔ニ（億兆ヲ安撫シ国威ヲ宣布被遊度ノ御宸翰。）云ニ叡旨ノ深切ナル、豈一字一涙ニ非スヤ。又五箇条ノ御誓文ニモ、一、広ク会議ヲ興シ万機公論ニ決スヘシ、一、上下心ヲ一ニシテ盛ニ経綸ヲ行フヘシ、一、官武一途庶民ニ至迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦サラシメンコトヲ要ス等ト、君民ノ際ニ於、其隔テナキ尊慮カクノ如シ。然ルトキハ君上ノ家内ニ処シテ君上ノ子タル者、何ソ各其一己ノ所業ニ、勇テ力ヲ君上ノ事ニ尽サヽル。君民ノ分斉固リ上下雲泥ニシテ、而モ君ノ民ニ於ル、其親眷カクノ如クナルコトヲ能ク了知セハ、民ノ君ニ於ル、奉戴セサルヘケンヤ。二ニ一新ノ生起ヲ知ルトハ、此レニ三意アルヘシ。一ニハ為レ保二全億兆一、二ニハ為レ対二峙万国一、三ニハ為レ報二酬先聖一。一新ノ政ヲ創業シ玉フコトハ、此三意ヨリ起レル者ナラン。先聖トハ、開闢以来ノ神明、神武天皇以来ノ皇君ナリ。其レヨリ次第ニ相承ケテ、今上皇帝ニ至リ玉ヘル故、今其祖先ノ大業ヤヽ衰微セルヲ興隆シテ、祖先ノ功徳ニ答ヘ玉ハントノ御憤発ナリ。何トナレハ、国ハ是レ天祖ノ曾テ吾子孫可王ノ地トノ玉ヘルノ国ナリ。民ハ是レ天祖ノ曾テ就而治焉トノ玉ヘルノ民ナリ。サレハ国ハ是万国ノ後ヘニ落ヘカラス、民ハ是塗炭ノ中ニ入ルヽヘカラサル者ナリ。コレ其保兆対国ノ二意アル所以ナリ。此二意ヲ遂玉フニ至テ、方ニ先聖ニ酬報シ玉フノ事成スル也。否則縦ヒ報先ノ叡慮切ナリトイヘトモ、報先ノ実成ラサル也。是其慨然トシテ詔勅ヲ発シ玉フ所以ナリ。サレハ臣民タル者、タヽ須ラク夙夜ニ彼宸文ヲ拝読シテ、其深趣ヲ敬承シ奉ルヘシ。若夫一字一血ノ詔勅ヲ拝シテ一字一涙ノ意ヲナサヽル者ハ、何等ノ不忠不孝ノ臣子ソヤ。但其寒郷窮巷ノ愚夫愚婦ノ其旨趣ヲ了知セサル者ハ、希有難遇ノ想ヲナサヽルモ宜ナリ。此等ノ輩ニ至テハ、若区長戸長等ノ周旋ノ至ラサルハ、最是教

導職ノ力メテ宣布スヘキ所也。凡ソ人情ハ皆生来俱生ノ我執ヲ帯ヘリ。故ニ我身ニ属スル者ハ其屋宅田園等ニ至マテ、皆他人ノコレヲ歎美スルヲ嘉フ。況己身ニ於ヲヤ。第五倫ガ世ニ無私ノ名ヲ得タルモ、猶不寝十起ノ親疎アリ。其贈リモノヲ受ストイエトモ、猶事ニ触テ其贈レル者ヲ思ヘルカ如キ是ナリ。今皇上ノ厚ク民ヲ親愛シ玉フト聞カハ、即是我カ最愛ノ己身ヲ愛シ玉ヘル君也。万民何ソ各自ニ其君ヲ思ハサルヤ。夫又我執ノ人情、己カ屋宅眷属狗馬等ニ至マテ、都テ他ニ勝ランコトヲ要シテ、其劣ランコトヲ恥ツ。今此皇国ハ即是我カ皇上ノ家ニシテ、我カ所住ノ処ナリ。何ソ唯区々タル掌大ノ家室ノミヲ愛シテ普天率土ノ大宅ヲ思ハサルヤ。サレハ今皇上ノ子孫可王ノ国ヲ以、万国ニ対峙セントシ玉ヘルニ於、左袒尽力シテコレヲ成サスンハアルヘカラス。且夫繊民ノ家トイヘトモ祖先ノ業ヲ墜スコトヲ恥ツ、何ソ今皇上ノ祖先ニ報ント欲シ玉フコトヲ恐察シ奉ラサル。然フシテ此レ皇上ノ祖先ト云トイエトモ、其実ハ万民ノ祖先ノ由テ出所ノ本也。且漢高曾テ項羽ト兄弟ノ約ヲナシ、他日謂テ曰、我父ハ汝カ父也、我父ヲ弑サハ汝カ父ヲ弑ス也ト。今モ亦然リ、君民ノ際ハ即父子ノ義アレハ、父タル君ノ祖先ハ子タル民ノ祖先ニ非スヤ。サレハ皇上ノ報先ヲ思ハサル者ハ、便ハチコレ我カ祖先ヲ思ハサル者也。故ニ我カ祖先ヲ思フ者ハ、皇上ノ報先ヲ助成セスハアルヘカラサル者也。夫一新ノ政ヲナシ玉フ所以ハ、天理ノ変化ニ順シ、天運ノ循環ニ任セ、内ハ旧幕ノ制ニ翻シ、外ハ万国ノ促スニ応シ玉フ者也ト雖、其叡慮ノ固存スル所ハ新異ノ事ヲ好ミ玉ヘルニハ非ス。唯是レ前ニ陳スル所ノ三意ヲ成シ玉ハンカ為ナリ。三意ヲ遂ント欲スルニハ、新制ニ拠ラスンハ、ヨク其事ヲ成スコト能ハス。時機形成全ク然ル故也。爾ルトキハ一新ノ聖政ニ遭遇シ奉ルモノ、深クコヽニ注意セスハアルヘカラス。世上ノ交接ニ於、近隣或ハ戚族等、若非常ノ事アレハ匍匐シテコレヲ救ヒ、土木ヲ興ス等アレハ拮据シテコレヲ助ク。況我カ万民ノ大父母、国家曾テ多難ニシテ、内債外債等小少ナラサルカ為ニ深ク宸衷ヲ悩シ玉ヒ、天下ノ大宅ヲ新タニ経営シテ万民ヲ好処ニ置ントシ玉フ。於是万民他邑ノ建築ヲ見、遠方ノ失火ヲ聞クカ如クナルハ何事ソヤ。明治己巳年、年分ノ入出ヲ照算シ玉フノ

記ヲ拝見スルニ、歳入八百万石ニ満サレハ、現米二百万石弱ナリ。而其歳出ハ三百廿四万石余ナリ。出入サシヒキスレハ百廿六万石余ノ不足トナレリ。其三百廿四万余ノ歳出ハ、禁中ノ総費ハ僅カニ十五万石ニシテ、其余ハ神社ノ営繕、諸官ノ俸禄、病院、貧院、内債外債ノ利分、非常臨時賞典等ノ入費トナレル者ナリ。天下ノ大宅ヲ治玉ヘルニハ、カクノ如キノ大費アリ。コレヲ以、皇上ノ御一身ニ荷負シテ憂慮シ、斯ル艱苦ヲ経テ今日ニ至リ玉ヘリ。如レ是ノ情事知スンハ已ナン。コレヲ聞カハ木石ニ非ル者、涙ヲ掩ハサルコトヲ得ンヤ。抑又一新ト云ハ、旧弊ヲ洗ヒ払フノ謂也。六七百年来君臣ノ職業倒置シテ、多ク古躰ヲ変シ、更ニ復弊習ヲ成ス。故ニ今ノ皇上天職ヲ正シフシ玉ヒ、内ニハ朝野ノ万事復古セサルヘカラサル有リ。外ニハ異邦ノ長ヲ取テ我短ヲ補フヘキ有リ。一時ノ恩忙豈宜ナラスヤ。譬ヘハ歳杪ニ室内ヲ浄メテ青春ヲ迎フル者ノ如シ。一ノ民戸アリ、其翁媼親カラ箒ヲ秉テ積煤ヲ掃フ。乃チ家属ヲ駆使シテ諸物ヲ運転出入セシメ、或ハ砂ヲ運ヒ水ヲ灌テ庭砌ヲ浄セシムル等、其雑沓実ニ言ヘカラス。故ニ闔家各自ニ安ク坐シ、時ニ食フノ節ヲ得サル也。於レ是痴児アリ。其坐ノ常ニ似サルヲ恨ミ、其食ノ時ニ及ハサル等ヲ慍ル。傍人乃チ訶シテ曰、吁(ア)汝何ソ痴ノ甚シキ、汝翁媼ノ容ヲ見スヤ、其面ヲ黒クシ其衣ヲ涴シテ狂セル者ノ如クナルヲ。汝何ソ暫時ノ非常ヲ忍テ永春ノ楽事ヲ待タサルヤト。於戯我カ皇上、辱ナクモ天下ノ大宅ニ主トシテ万民保全ノ回春ヲ期シ、旧染汚俗ノ煤塵ヲ掃ハントシ玉フ。此時ニ当テ、事々物々廃立日(ヒ)ニ新タニ、羽檄尺簡道路ニ相臨ミ、異学ヲ弘メ、異教ヲ容レ、電線ヲ張リ、鉄道ヲ催シ、民戸ヲ検シ、田畝ヲ査スル等、其事実ニ紛紜タリ。於レ是頑夫痴婦ノ輩、怫然トシテ謂ヘラク、今日ノ事カクノ如シ。不レ知将来ノ終皈其レ何レニカ在ル。杞人ノ曾テ天ノ落ンコトヲ憂ヘシモ、今我等カ身上ニ知ル。寧処ノ思ヒナク、眠食安カラス、誰カコノ極ニ至ラシムルヤト。爰ニ先覚ノ人アリ。コレヲ弾シテ云ク、悪(ア)汝何ソ無智ノ甚キ、汝其大父母タル皇上ノ光景ヲ知ラスヤ。我レ言ン、汝聴ケ、去ル戊辰ノ勅ニ、今日ノ事朕自ラ身骨ヲ労シ、心志ヲ苦シメ、艱難ノ先ニタチ等トノ玉ヒテ、九重中ニ安居シ玉フ者ニ非ス。汝何ソ皇上ノ労ヲ思ハスシテ、独リ自己ノ今日

ヲ快クセンヤ。今日ノ雑沓ハ他日安穏ノ春ヲ迎ヘテ、汝等ヲ浄潔ノ大宅ニ置テ、其利ヲ利トシ、其楽ミヲ楽シマシメント也。サレハ暫時ノ鞅掌ニ忍ヒテ、他日永々ノ安寧ヲ待ヘシ。朝廷ノ天旨決シテ汝等ヲ塗炭ニ入レントニハ非ス、汝等必杞人ノ憂ヲ抱クヘカラス。汝等頑愚ニシテ、其本旨ヲ了セサルカ故ニ其疑惧スルモ宜ナリ。今我レ大義ヲ述テ汝カ疑団ヲ解カン。夫今日ノ政躰、憲法ヲ以民事ヲ正シ、教法ヲ以民心ヲ安ンセント也。顕事ノ政令ハ五彩ノ如シ、幽事ノ教法ハ膠汁ノ如シ。五彩美ナリトイヘトモ、膠汁ヲ以コレヲ和セスンハ堅固ナラス。故ニ神仏ノ教義ヲ以民心ヲ固結シ、王法ノ政令コヽニ於復散落セス。政教相依テ彩膠其宜キヲ得ル也。夫先ツ王法ノ制度ト云ハ政刑ノ二ニ過ス。政トハ其各自ノ守ル所ヲ正シテ其業事ヲ好カラシムル者也。刑トハ其業事ヲ守ラスシテ、其正シ玉フ所ニ逆フ者ヲ罰スル也。然フシテ其政刑ノ期スル所ハ富国強兵ニシテ、天下太平ニ至ルヲ極トス。是故ニ政治ニ於、先万事ノ廃立アル所以ハ、内ニハ適タマ旧幕ノ政ヲ翻シ玉ヘルカ故ニ、廃止スル所無カルヘカラス、王覇ノ制異レハ也。外ニハ偶タマ万国ノ盟ヲ成シ玉ヘルカ故ニ、創立スル所無カルヘカラス。用捨ノ宜キヲ得レハ也。サレハ廃立ハ新奇ヲ好ミ玉ヘルニハ非ス。但是レ安民ノ術ニ労シテ国ヲシテ善美ナラシメンカ為ノミ。夫一新創業ノ際、万事ノ多端ナル、固ヨリ言ヲ待サレハ、其布告等ノ旁午ナル、実ニ其所也。何ソ恠ムニ足ン。而細民ニ在テモ、一戸事アレハ其門族親戚ニ告ク。彼レ若告スシテコレヲ行ナハヽ、此レ其レ慍レルニ非スヤ。王者ハ固ヨリ擅制スヘクシテ、而モコレヲ民トトモニシテ、丘民ノ微末ニ及ホシ玉フ者ハ、豈深切ノ至リニ非ヤ。且曾テ万姓ノ言路ヲ開テ其言ント欲スル所ヲ言ハシメテ、投書等ヲ許スニ至レリ。サレハ其布告スル所モ、民ノ利不利トスルニ従フテ、其改ムヘキハコレヲ改ルニ憚リ玉ハサル者ナリ。何ソ斯ル天旨ヲ感戴セスシテ、反テ其煩冗ナルヲ厭ヘルヤ。抑又小学ヲ天下ニ羅設シ、外国ノ学ヲモナサシメ玉フ者ハ、学ハ其レ人ノ昏朦ヲ開テ智明ヲ発スル所以ノ者也。世間出世ニ就テ誤ル所有ルハ、皆蒙昧ナルニ由ル。若其智明ヨク事理ニ通テ是非判然ナルトキハ、其従フ所弁セサル事無シ。若学ヲ以所謂物シリニ矜リ、狡黠人ヲ欺クノ具トナサハ、

固ヨリ学ノ本意ニ非ス。朝廷ノ人ヲ教ヘ玉フ所以ハ、タ、其昏昧ヲ開テ其職業ヲ善巧ナラシメント也。世上常ニ文字ヲ知ラサルヲアキメクラト云テコレヲ恥、其子ニ文字ヲ習ハシムルヲ子ノ目ヲ明ケルト云也。サレハ今朝廷諸学校ノ設ケ、万民ノ大父母、大イニ万民ノ目ヲアケントシ玉フ者也。ヨク万民ノ目ヲアケルトキハ、内ハ各ヲシテ其職業ヲ善クシ、外ハ文明ノ諸国ニ対シテ国-恥ヲ取ラサラシムル者也。何ソ大父母至仁ノ旨ヲ躰セスシテ学校ノ設ケヲ蔑シ、終ニ天下ノアキメクラトナルコトヲ甘ンスルヤ。此余、電線鉄道等ハ皆是其尤モ便利ナル者ニシテ、ヨク人ノ功労ヲ省ケハ、其ナスヘキノ職業ニ全力ヲ致シ易シ。ヨク力ヲ職業ニ尽セハ事皆速ニ弁ス。事皆速ニ弁スルハ富強ヲ成ス所以也。サレハ利器々械ハ、便チ是富強ヲ成ス所以ノ具也。民其食足ラサレハ、礼義行ハレス、富強ノ術無カルヘケンヤ。サレハ彼長ヲ取テ此短ヲ補フハ、徒(タ)ニ新異ヲ喜ンテ彼レニ傚フニハ非ス。是レ我カ富強ノ為ナレハ、即是自国ヲ愛護スルノ至リ也。抑又電線ノ如キハ、其初メ、世人皆其由緒ヲ審セサルカ故ニ、全是魔術ノナス所ト思シ故、甚コレヲ厭ヘルコトナレトモ、其実ハ精密ナル窮理ヨリアミ出シテ、陰陽ノ気ヲ巧ミニハタラカセタル也。天地ノ間ハ陰陽二気ノミチ〳〵タル処ナレハ、其気ノ運用ニ由テ、イカナル奇妙ノ事ヲモ成スヘキ也。仏教ニ於、五根五識ノ縁境ヲ論スルニ、離中-知、合中-知ト云コトアリ。鼻識ノ香境ヲ知リ、舌識ノ味境ヲ知リ、身識ノ触境ヲ覚スルカ如キハ合中知ナリ。香味触ノ境カ鼻舌身ノ根ノ所ヘ来リ合シテ、鼻舌身ノ識、コレヲ覚知スル也。眼耳二識ノ色声二境ヲ縁スルカ如キハ離中知也。而眼識ハ光リヲ伸テ彼色境ノ所ニ至テコレヲ知リ、耳識ハ彼声境来リ近ツイテ耳識コレヲ知ル也。然フシテ香境ノ来リ合スルカ如キハ稍遅シ、声境ノ来リ近ツクカ如キハ頗ル速カナリ。彼コニ(ママ)鐘ヲ鳴ラシテ此コニ之ヲ聞カ如キ、彼声気ノ勢力疾ク此コニ至ル也。電線ノ如キハ器械ノ力ヲ以、其気ヲ役スルコトノ最速カナルコトヲ得ル者ナリ。別ノ邪魔神通ノ関カル所ニ非ス。但此迅疾ノ器械ヲ仮テ、コレヲ不測ノ神力ニ託シテ人ヲ欺誑スル者ハコレ別論ナリ。直(タ)便利ノ為ニ正道ヲ以コレヲ用ルニ於ハ、厭フベキコトニ非ス。此余乍チニ人ノ耳目ヲ驚カスル器械マ、多ケレトモ、皆是レコノ

類也。但其用心スヘキハ、コレヲ用ルノ邪正ニ在ルノミ。サレハ取長補短ノ制ニ至テハ、皆是国家ヲ愛スルヨリ出テ、億兆保安ノ基イ、富国強兵ノ淵源ナリ。是故ニ今日ニ当テ各ヨク知識ヲ開キ、凡ソ施為シ玉フ所ロノ百般ニ於、皆其由テ来ル所ノ淵源ヲ了シテ、皇政ノ辱キヲ感戴スルトキハ、便チコレ真ノ開化也。葬儀大陽暦等ノ弁更ニ別ニ云云ス。若其淵源ノ本旨ヲ了セスシテ、徒ニ外国ノ風致ヲ慕フテ皇国ノ固有ヲ蔑視シ、喬木ヨリ幽谷ニ下リ、全国ヲ挙テ一一皆他ノ指麾ニ委ヌヘシト謂ヘルカ如クナラハ、実ニ憎ムヘキノ妄開化也。サレハ開化ノ左右、其初メ毫釐ニシテ、終ニ真妄千里ノ差ヒヲナス者也。慎マスハアルヘカラス。次ニ以教法安民心トハ、神教ノ如キハ本ヨリ祭政一致ノ法ニシテ、政ハ猶祭如、祭モ亦政ニ同シカルヘシ。タヽ顕幽ノ異ルノミ。仏教ニ至テハ、初メ西天ニ興リシヨリ、到処皆国政ノ外ニシテ、而モヨク国政ヲ補益スル者也。猶陰ノ陽ヲ助ケ、地ノ天ヲ承ケ、妻ノ夫ヲ佐ケ、心ノ身ニ依ルカ如キ者也。元気、陰無カルヘケンヤ、虚空、地無カルヘケンヤ、室家、妻ナカルヘケンヤ、身躰、心ナカルヘケンヤ、天下、仏無カルヘケンヤ。夫仏教ハ本ヨリ国家ノ政令ヲ建立シ、万姓ノ職務ヲ指麾セントニハ非ス。仏ノ在世、彼君主タル人ニ対シテ、暴悪ノ擅制ヲ停メテ至仁ノ徳化ヲ施サンコトヲ勧ム。其旨、王法政論経等ニ説カ如シ。譬ヘハ嬰孩ノヨク薬ヲノマサルモノ、若病アルトキハ其母親カラ薬ヲ服シ、其乳ヨリシテ薬功ヲ孩児ニ施スカ如シ。剛強ノ衆生ハ直チニ真諦ノ法薬ヲ用ルコト能ハス、人君コレカ為ニ親ラ法薬ヲ服シ、之ヲ威厳ノ政刑ニ篩シテ、以剛強ノ者ヲ治ス。サレハ出世ノ仏法、豈王法ノ世教ニ益無シヤ。且夫仏ノミツカラ万姓ニ対スル、必シモ出世真諦ノ法ヲ説カス、応病与薬ノ故也。故ニ未タ世間ノ善ダモ好クセサル者ニハ、世間俗諦ノ法ヲ説テ人道ニ過マチ無カラシメ、既ニ世間人道ヲ善クシテ、将ニ出世ノ神道ニ進ントスル者ニハ出世真諦ノ法ヲ与フ。世善ニ止マリテ出世ニ進マサルヲ訶スルコトアリトイエトモ、世善ヲ跨キ過テ、特リ出世法ノミヲ授クルコトナシ。世善ニ階シテ、マサニ出世ニ入ルヘケレハ也。是故ニ世間出世ノ善、一トシテコレヲ廃スルモノナシ。在家出家ノ五衆、斉皆仏弟子ニ属スル所以ン也。皇国ノ天子、固ヨリ仏教ヲ崇尚シ玉フト雖、方今維新ノ

聖制、殊ニ神人仏徒ヲシテ国事ヲ宣布シテ衮職ヲ補ハシメ玉ヘルコト、良ニ有リ以哉。爾ルニ西洋ノ異教ノ如キ、前帝ノ時ヨリ曾テ之ヲ厳禁シ玉ヘリ。而頃コロ其禁稍弛ヘルカ如シ。コレ其衆人ノ疑惧シテ所々擾動スルコトアル所以ン也。今窃カニ以ミレハ、此レ禁ノ弛ヘルニハ非ス、但コレ政ヲ以禁セスシテ、教ヲ以制スル者ナリ。何トナレハ政ハ万国ノ交際ニ順シテコレヲ敢テセス、唯我カ教法ヲ以、民心ヲ固結シテ彼レニ趨ラサラシムル、即是レ禁ノ最モ厳ナル者ト謂ツヘシ。人若此深意ヲ躰セスシテ、朝廷稍彼レニ皈向シ玉ヘルナラント妄認セハ、便ハチ天旨ヲ損シ奉ン。夫レ彼レカ教ヲ立ル本ト拙シ、古今漸次ニ之ヲ潤色スト雖、基本ト一因多果ノ計ニシテ、世上ノ君父ヲ蔑シ、独リ友誼ヲ尚ンテ其党ヲ雲集セント要シ、彝倫ノ大綱殆ント滅セリ。而其拙ヲ飾ルニ窮理ノ学ヲ以シテ、実験ヲ以口実トス。器械眼前ノ奇巧ヲ負ノミ、経歴スル所ノ地理ヲ極トス。奇巧何遠大ノ理趣ヲ窮ン。経歴豈渺茫ノ天地ヲ尽サンヤ。虚空本ヨリ辺際ナシ。所謂五大洲ナル者ハ大海ノ一漚ノミ。安ンソ五大洲ノ外、更ニ無辺ノ世界有ラサルコトヲ知ンヤ。若彼ヲシテ自在ノ神力ヲ得テ、虚空ヲ飛行シテ十方ヲ遍覧セシメハ、始テ前見ノ小量ナルヲ慚ン。鎖国ノ人ハ曾テ他方ノ万国アルコトヲ疑フ。船艦ヲ通スルニ及ンテ、方ニ前聞ノ虚ナラサルコトヲ知ルト、其理一般ナリ。斯理ニ准スレハ、安ンソ無辺世界ノ中、開化ノ又開化ナル国有テ、器械ノ巧妙等更ニ百千倍セル有ルニ非ルコトヲ知ンヤ。サレハ仏ノ遠大高妙ノ説ヲ以、茫々タル虚誕ナリトセハ、彼一隅ヲ執テ窮極ト謂ヘル者ハ、亦区々タル局見ニ非ヤ。局見ヲ以虚誕ヲ嘲ル者ハ、亦大方ノ公論ニ非ル也。是故ニ今彼齎ラス所ノ万品、コレヲ取テ我用ニ給スルハ可ナリ。コレヲ執リ、且併セテ彼教ヲ尚トフニ至テハ其レ不可也。此レ国家ノ為ニ平心シテ鄙衷ヲ奏スル所也。夫仏教ハ窮理ノ最モ至レル者歟。菩薩ノ行法ヨク五明ニ通達ス。曰ク、内明、声明、因明、医方明、工巧明、是也。瑜伽論 祇園図経ヲ按スルニ、祇園精舎ノ中書院アリ、韋陀院アリ、医方院アリ、陰陽書藉院アル等云云。皇国嵯峨天皇ノ御宇、綜芸種智院ヲ設ケ玉フ性霊集カ如キ、蓋其遺意ナラン。抑彼五明ニ於余明ハ姑ク舎ク、其内明ノ如キ、一切有為無為色心等ノ諸法ヲ細論シテ、終ニ諸法唯心ニ結皈

ス。流転モ心ヨリシ、還滅モ心ヨリシ、世間出世、有漏無漏、善悪ノ所作、地獄天堂、苦楽ノ果報、一トシテ心ニヨラサルナシ。是レ其仏教ノ大宗ナリ。仏曾テ三祇ノ劫数ヲ経テ万法ヲ格致シテ、一切智、一切種智ヲ得、而法界等流ノ教法ヲ垂テ窮理ノ要ヲ示ス。仏徒タル者、仰テ信解セスハアルヘカラス。但恐クハ末法ノ遺弟、仰テ信スト云ヘトモ、其解ヲ得ル者ノ多カラサランコトヲ。若ヨク如説ニ覈求シテ其理ヲ窮メハ、何ソ外敵ヲ畏ン。外敵ヲ畏レサルニ至ラハ、便ハチ是レ万髄ヲ厭飫シテ、国家厳制ノ深意モコヽニ満足セン。此レ其切々トシテ庶幾スル所也。

上来謹テ上旨ノ一斑ヲ窺フ。若ヨク上旨ノ辱ケナキヲ了知セハ、宿疑氷消シテ仰信啻ナラス、皇上朝旨ニ於奉戴セサルコトヲ得ンヤ、遵守セサルコトヲ得ンヤ。

瑕丘宗興著三条叢説巻之四尾

『大道本義』〔抄出〕　浦田長民　（明治十年一月）

第十三章　論三条教憲為道之要領

明治三年正月。天皇行幸神祇官。祭神祇畢。乃下詔曰。朕恭惟天神天祖。立極垂統。列皇相承継之述之。祭政一致。億兆同心。治教明於上。而風俗美於下。而中世以降。時有汚隆。道有顕晦。今也天道循環。百度維新。宜明治教以宣揚惟神之道也。因新命宣教使。布教天下。汝群臣衆庶。其体斯旨。於是宣教使四出布教。民始知有教矣。尋改神祇官為神祇省。又改神祇省為教部省。改宣教使為教導職。置正権大中少教正講義及正権訓導。定三条教憲。設教院及教会於各所。於是教導之方。無所不備。民始知所帰嚮矣所謂三条教憲者何也。一曰。宜体敬神愛国之旨。二曰。宜明天理人道。三曰。宜使奉戴皇上遵守朝旨。三条之説。詳於下巻。今唯挙其所本而言之。敬神本於宝鏡之訓。此訓也。是天祖之所以寓神影於斎鏡使天孫仰以奉祀不敢忘孝敬。而臣民報本反始之義。亦実出於此。愛国本於修理固成之神蹟。国土万物。是

天神天祖之所以生成化育之以伝之於天孫。而臣民性命衣食之源。亦実出於此。夫敬神愛国者。教之大経也。故掲之第一条。以示其為人之至任。教導職能体認此聖旨。是之謂体敬神愛国之旨。天理本於乾道独化成斯純男。及婦言先揚違陰陽之理。蓋天地成而陰陽分。乾坤定而男女生。有夫婦。有父子。有兄弟。有朋友。有君臣。故人倫之本。則始於夫婦。人行之極。則終於君臣。是天之理也。有天理故有人道。人道不過五倫。五倫之本於神訓。既如上章所論。夫天理人道者。教之大法也。故掲之第二条。以示其為人之本分。教導職能明暁此神訓。是之謂明天理人道。奉戴皇上。本於「天児屋」「天太玉」侍殿内輔翼天孫。遵守朝旨。本於「大巳貴」奉勅避国隠八十隈。蓋易姓革命之国。則其天子出自凡種。猶犬豕之子馬牛之孫也。而彼臣民猶仰之以為君主。均是臣民也。孰若我臣民奉戴神胤一系之天皇之為至幸哉。彼臣民旦猶聴犬豕子馬牛孫之命令。況於我臣民。其誰得不遵守朝廷之旨。夫奉上遵旨者。教之大用也。故掲之第三条。以示其為人之先務。教導職既能体認第一条。明暁第二条。然後導民使其能知君臣大義以尽忠於上。是之謂使奉戴皇上遵守朝旨。凡此三条。皆本於神典。而非今日所創設。教導之方雖多端。亦唯不出三条範囲。則三条教憲。実為道之要領矣。且明詔所謂祭政一致者。亦本於「児屋」「太玉」補佐大政以主祭祀。祭即政也。行政在教。教立而政行。故祭政一致。政教不岐者。是古昔聖皇之所以致隆治。而今日明詔之所以眷眷於此也。然則天皇之建教部省置教導職。以布教於天下。固為方今之急務。而三条教憲。亦実為道之要領。以此教民。何民不可導。意其移風易俗臻於隆治之域不難也。是唯在教導職之能尽其心力焉耳矣。

大道本義上巻終

第九章　論守三条教憲

我道広大。人皆病不能弁其津涯。是以朝廷特立三条教憲。以示其要領。既如上巻所論。爰申言其守之之方。第一条曰。宜体敬神愛国之旨。何謂敬神。曰。神有正神。有邪神。凡国神列祀於典者。皆謂之正

神。凡蕃神不列於祀典者。皆謂之邪神。凡正神皆宜敬之。而其可最敬者。天神也。天祖也。「豊姫」也。「月尊」也。「素尊」也。「大巳貴」也。産土神也。凡邪神皆無威霊。固不足敬。若或敬之。則必獲罪於正神。「平城」之朝。勅禁淫祠巫覡。奉道者宜奉此為法。決勿敬邪神。敬者何。主一無適之謂也。外貌雖恭。心非主一無適。則不足以為敬。我唯主一神。而尊奉之。畏信之。依頼之。帰栄之。一心至誠。不敢他適。是之謂敬神。人本於神。神実生人。人之於神。其源雖遠。而一脈分派。均汲其流。以生以育。各得其所。人固不可不知其本也。且神之為徳。以好生育物為心。自衣食之源。療疾厭災之方。以至宮室橋梁。舟車棺槨之用。無一不出於好生育物之心者。人固不可不懐其恩也。既知其本。又懐其恩。則豈有不敬神之理哉。今有人焉。自以其形軀為由自造。傲然自高。奮自智。誇自能。恃已驕人之極。遂至慢神於無形。殊不知我百体是神之所賜於我。而百体失用。則我之負於神也。我五官是神之所賜於我。而五官失職。則我之負於神也。我霊魂是神之所賜於我。而霊魂失道。則我之負於神也。誠如是也。不敬之罪。其将安遁。既有不敬之罪。神之罰又将安遁。是故奉道者。則自卑自謙。自愚自暗。唯神是仰。主一無適。以報謝恩徳。夫如是。則可以事神矣。夫敬神之義者。皇教之大本也。「神武」「崇神」二皇以来。列聖之敬神。固弗待言。「中臣」「斎部」「物部」三氏。亦世敬神。敬神事蹟及事神典礼。並詳於第十三章。故今唯論敬神之義於此云。何謂愛国。曰。尽心力以愛護我国土。切於慈母保赤子是也。夫我国土者。天祖之所以降天孫為之君以撫恤斯民者也。而民之蠢爾。依斯国。託斯生。自祖而父。而子而孫。世世相承。食斯国之粟。浴斯国之恩。事斯国之君。寧可不知其所由耶。且地球上。有国則有民。散処分類。聚処成群。雖野蛮猶能知各愛其国土。況如我国土。則地球之宗国。万方之鼻祖。苟託生於鼻祖宗国。而恬然自居。曽無愛国之心。則人之所以為人者。其安在哉。人之生也。均是父母之所鞠養。其性情形体。固已相同。則孰有不愛其身者。愛身者必愛其家。推愛家之心。以及国土。則愛無

所不至。乗舟者必択帆檣之良。駕車者必択輪轂之堅。舟車取用於一時。其託生也不久。而猶恐其有覆溺之患。至於国土。則其託生也久。世世不変。国土之富強安寧。則不止我生之幸。又為子孫之福。而我視之。不如一時之舟車。是豈託生之道也哉。凡物有遠近大小。而近小必在遠大之中。遠大者安。則近小者亦安。我身家既在国土之中。如之何其愛重身家於近小。而疏外国土於遠大也。但人有貴賤之分。是以愛国之道不同。天子則有天子之愛国。百官則有百官之愛国。商之於交易。工之於伎芸。農之於耕耨。各随其分。以尽力於其業。亦為愛国之道。愛国之道。雖有貴賤之不同。要在維持国土。而富強之安寧之。使宇内万国実服於我耳。然国土之大。以一人之力。安能富強之安寧之。要又在合衆力以維持之耳。譬如大石。其重千斤。非一索所能挽。更加数索。則可以挽之。是合衆力之効也。「小早川隆景」疾病。召諸子使一人折一箭。既折之。更取数箭使折之。不能折。乃諭曰。孤則易折。衆則難折。同心戮力。可以保国。今一人之力雖微哉。合闔国三千余万人。而一之。同心戮力。以図富強安寧。則其維持国土。何難之有。「持統」之詔有尊朝愛国之語。「藤原基経」之表有愛国忠謀之言。可見愛国之説。自古既重之也。方今之世。内承武門柄政之宿弊。外開宇内万国之新交。当是之時。天皇励精図治。百官犇走率職。雖商工農。亦烏可不尽力以愛国耶。蓋愛国之理出於敬神。敬神之用行於愛国。能敬神者。必能愛国。能愛国者。必能敬神。敬神之与愛国。其義一也。故曰。宜体敬神愛国之旨。第二条曰。宜明天理人道。何謂天理人道。曰。神之所定謂之天理。人之所由焉而行。謂之人道。神之霊徳。化成万物。生生不息。凡在両間者。無一物不具有天理者。人固為万物之霊。是以天理全備。非万物比。人受命於天以生。所謂性也。在人則謂之性。在天則謂之理。是人以天理為性也。人以天理為性。故率性則有道。乃知天理者人道之所由出。而人道者天理之所寓也。是故天理即人道。人道即天理。天理人道。一而不二。順天理。修人道。是之謂明天理人道。天之生人。実有品類。名之曰人倫。自其出於天謂之天倫。自其恒久不易。謂之彝倫。自

其数目有五謂之五倫。一曰君臣。二曰父子。三曰夫婦。四曰兄弟。五曰朋友。此五者人之大倫也。君仁臣忠。父慈子孝。夫和婦順。兄友弟恭。朋友互有信義。是乃率性之道也。是乃五倫之道也。所謂五倫之道者非他即人道也。即天理也。順天理。修人道。実為人之本分。故曰。宜明天理人道。第三条曰。宜使奉戴皇上遵守朝旨。何謂奉戴皇上。曰。皇国之教。在五倫之中。以君臣之分為最重。皇国君臣之分。実不同於外国。外国之立国也。天下則天下之天下也。故有禅譲。有放伐。有共治。有合衆。得勢則為君。失勢則為臣。君臣相易。甚於伝舎。未始有一定不変之大経。我則不然。天祖之垂統。天孫之建基。宝祚一訓。確定大義。一系神胤。継承於万古。赫赫天威。猶大陽懸於天。億兆臣民仰之愈高。乃知皇国天下則天祖之天下也。是為皇国国体。故其君臣之分。不同於外国。而在五倫之中最重之。自天孫降臨。経一百七十九万、二千四百七十余年。至「神武」即位辛酉歳。而今之紀元。起於辛酉歳。又既経一百二十二世。二千五百三十六年。歴世之久。深恩至徳。感洽人心。雖国歩時有艱難。而天皇之尊則自若也。由是観之。天皇之尊。猶天祖之尊也。且天皇之於天祖。一系聯綿。宛如一条金鏈接続不絶。天祖神也。天皇人也。神人相連。人亦如神。以其与凡人異其種。故自古称天皇曰現人神。夫天皇既為現人神。而其尊猶天祖之尊。則臣民之於天皇。宜仰之如天祖。事之如天祖。尽誠忠之心。以報荅皇恩。是之謂奉戴皇上。何謂遵守朝旨。曰。朝廷所下号令。謂之朝旨。一号一令。悉服膺之。不敢失墜。謂之遵守。夫道者天祖之道也。天祖以是伝之天孫。天孫以是伝之後皇。以至於今上天皇。道之在天下。厳乎一定。万世不変。然世有古今。是以制度則不得不随時変易。是猶夏葛而冬裘。渇飲而飢食也。蓋制度之所以不得不変易者。為道之不可変也。故道則無古今之別。而制度則有随時之宜。「神武」之詔曰。大人立制。義心随時。苟有利民。何妨聖造。大哉王言。豈非万世之宝訓乎。巾古而還。制度凡幾変矣。或因三韓之朝貢。以資其器用。或遣使唐土。以資其文物。列聖之用心。廓然大公。曾不恃自国之能。仮他山之石。以磨我玉。以済斯

世。安斯民。方今奎文垂象。聖明御世。内統四海。外交万国。洞察時勢。大釐革其制度。廃封建。立郡県。興学校。分官職。改暦法。定兵制。明刑律。正度量。等民権。殖物産。他如田賦土木。貨幣衣服。器械薬品。戸籍駅遞。火船鉄橋。汽車電信。種樹点灯之類。亦皆煥然一新。捨短取長。去麤就精。以修飾治具。啓発人智。将以使国歩日進月化耀皇威於宇内。是以朝廷所令。固有驚民耳目者。而民猶忸旧習。図私便。毎一令出。囂囂輒謗讟唯説其害。而不称其利。又或主張民権。不敢憚朝廷。公然開口曰。天下之主眼在人民。故天下者非天皇一人之天下。天皇人也。我亦人也。三千五百万。各有自主自由之権。我豈肯使天皇奴隷視我牛馬用我哉。噫。忘恩背義之甚。至於如此。是不特天皇之罪人。抑亦天祖天孫之罪人也。試思臣民之祖。孰有不逮事天祖天孫者。然則其子孫生育今世。臣事天皇者。亦皆天祖天孫之遺民也。其祖既奉神命於上古。而今其子孫乃忘恩背義。誹議政令者。設令天皇寛仮之。不措諸刑典。天祖天孫在天之霊。豈不殛罰之哉。為臣民者。宜回頭革面。発崇敬之心。一号一令。悉服膺之。不敢失墜。以報答皇恩。是之謂遵守朝旨。蓋奉戴遵守。本無二致。遵守之節。出於奉戴之誠。奉戴之誠。心有遵守之節。是実臣民之大義也。故曰。宜使奉戴皇上遵守朝旨。抑教憲雖止於三条。而其実至該至博。天下万事。皆羅括於三条。而三条又分之於体与用。体明二条則体也。奉戴遵守一条則用也。用本於体。体行於用。体則教職之所宜知。故不曰使。用則教職之所宜諭臣民使其務之。故曰使。敢問。在臣民唯用是努。則不知体而可歟。曰。朝廷之立三条也。本為教職而設之。然為臣民者。苟欲務其用。則体亦不可不知。知其体。務其用。而後守之之方備矣。故上巻則為教職。論其所本。此章則為臣民論其所守。読者宜参看而熟思焉。

『三条大意』　萩園雷雨　（明治十年七月）

三条大意　条教ノ大概ヲ述ス、故ニ名ク。

権少教正
萩園雷雨　述

叙シテ曰ク、大凡ソ父母ノ子ニ於ケル教育ヲ思フノミ。皇上ノ億兆ニ於ケル、何ソ他アラン。三条教憲者、兆民ヲ教育セシムル政教ナリ。我カ輩悉クモ教職ノ命ヲ奉ス。善クセスンハアルヘカラス。遂ニ孤陋ヲ忘レテ、聊カ愚言ヲ述ス。意諸賢ニ呈露シテ可否ヲ乞フ耳。于時明治十年六月

三条

三条ノ二字者政教ノ総目ナリ。教義解シ難シ。譬ヲ条ニ借ル。夫レ玉琢カサレハ器ヲ成サス、人学ハサレハ道ヲ知ラス、何ソ禽獣ニ異ナラン。我レ聞ク、民ハ国ノ本ナリ。寧ロ禽獣ヲ以テスヘケン乎。コヽヲ以テ古ノ王者国ヲ建テ、民ニ君タル、必ス教学ヲ先トス。今上皇帝一新ノ佳晨ニ当ラセラレ、大政官下ニ八省ヲ分チ、各一政ヲ為サメシム。今コノ三条者、教部ノ為サムル所、民ニ天理ノ本性ヲ教ヘ、人ヲシテ人タラシムル所以ナリ。猶ヲ樹ヲ植ユル、能ク其ノ性ヲ知リ、其ノ地ニ培植スル等ハ、樹年々ニ生育シ、条歳々ニ繁茂シテ、疎通疎条シテ、樹能ク樹タルカ如シ。教学モ亦タ爾カリ。兆民ニ能ク本性ノ天理ヲ教ヘ、明ニ知ラシメ、明ニ行ナハシムル等ハ、静性年々ニ生育シ、徳歳々ニ盛大ニシテ、人能ク人タルニ至ル。コレ等ノ義状ヲ顕ハサンカ為メ、法譬兼挙シ、総計シテ名トス。学タル本性ヲ得レハ、復タ外無シ。政教ノ尽クセル、潜心熟思シテ、慎ンテ聞キ、一ニ奉遵セスンハアルヘカラス。

第一条

已下三条別分シテ教ヘ、以テ本性ノ玉ヲ琢カシム。発端-分、正-教-分、布-教-分ヲ謂フ。又叙-分、正-説-分、流-通-分ト称スヘシ。第ト者居ナリ。一ト者首ナリ。兆民ノ徳ニ入ル、敬神愛国ヨリ先ナルハ無シ。故ニ端ヲコヽニ発ヒテ第一トス。

敬神愛国ノ旨ヲ体スヘキ事

三条文ニ体格アリ。倶ニ二法ヲ以テ対ス。詩人ノ所謂流-水-対ノ法ニ似タリ。コノ際節アリ。帰要アツテ横竪相ヒ織リ、布教ヲ指揮セリ。又条々正意アリ。結アリ。今第一条ノ中、神祖ノ聖徳ヲ崇敬シ、瑞穂ノ化育ヲ保愛スルヲ以テ対ス。已上横、已下竪。意、神祖ノ聖徳ニ浴シテ、本ヲ立シメントナリ。横竪相織リ、先後関鎖スル、其ノ状略見ツヘシ。中ニ於テ上ノ七字ハコレ正意、下ノ一字ハコレ結、正意ノ中事アリ、旨アリ。礼ヲ竭クシテ聖神ノ徳ヲ崇敬シ、心ヲ用ヒテ瑞穂ノ化育ヲ保愛スルハ事ナリ。聖神ノ徳ニ浴スル心ヲ以テ身ヲ修サメ、本ヲ立ツルハ旨ナリ。二義一ヲ缺ケハ則非ナリ。故ニ敬神愛国ノ旨ヲ体セシム事ヤ、修メスンハアルヘカラス。旨ヤ体セスンハアルヘカラス。体ト者体認体達ノ義、巧ニ達スルノ辞ナリ。人多ク身躰ノ義トス。不得意ノ甚シキナリ。結語ノ事、字体事ヲ義トス。勧誡ノ意ヲ含ム。曰ク、条体ヲ得ンコトヲ結勧シ、条体ヲ失ナハンコトヲ結誡ス。条々皆ナ爾カリ。余人ノ敬愛ノ説ヲ聞クニ、多ク四神等ノ諸神者、但タ皇国ノ太祖タルヲ以テ崇敬スヘキヲ説ク。偶聖神ノ徳ヲ崇敬スト説ク等ハ、則検査課難シテ曰ク、若シ凡庸ナラハ祖先ト雖トモ崇敬セサル耶。等ト云フ説者、難ヲ承テ芒然タリ。余ヲ以テコレヲ意フニ、難答、倶ニ不得意ニシテ、唯意ニ任セテ説キ、意ニ任セテ難ス。曽テ条教ノ文理ヲ知ラサレハナリ。祖先ヲ敬スルハ世ノ通義ナリ。何ソ舎ツヘケン。神徳ヲ敬スルハ異教ニ対スル今ノ別義ナリ。二義相存シテ相舎テス。意、聖徳ニ浴スル稍重シ。故ニ敬神ト謂テ敬祖ト謂ハス。況ヤ第二条ノ中、殊ニ天理人道ヲ明ニセシム。夫レ聖神ノ徳ヲ崇敬シ、其ノ徳ニ浴スルニ非スンハ、何ヲ以テ天理人道ヲ明ニスルコトヲ得ン。通義ヲ舎スシテ、別義ヲ重ンスルコトヲ顕セリ。胡為レソ、粗漫ニ説キ去テ教義ヲ尽サヽル耶。自カラ善セスシテ、何ソ他ヲ教ユルコトヲ為ン。又人多ク富国強兵ヲ以テ愛国ヲ説ク。夫レ富国強兵者、本ト太平ニ乱ヲ忘レサル備ヘナリ。本ヲ立テヽ徳ニ入ラシムルノ教ヘニ非ス。況ヤ兵ハ凶器、已ムヲ得サル事ナルヲ乎。意フニコレ等ノ説ハ、未タ三条ノ大義ヲ知ラサルノ致ス所ノミ。

第二条

第一条、端ヲ敬愛ニ発ヒテ、已ニ本ヲ立テシム。故ニコノ条、次ヒテ天理人道ヲ明ニスルヲ教ヘ玉ヘリ。所レ謂本立テ道生ルノ義ナリ。標目ニ於テ預メ知ルヘシ。

天理人道ヲ明ニスヘキ事

天ト者、巓ナリ。尊ムヘク、貴ムヘキ名ナリ。人固有ノ人タルヘキ静性ヲ尊メ貴ムテ、称シテ天理ト謂フナリ。天理ニ照準シテ行フ、コレヲ人道ト謂フ。天理人道ハ性ト行トノ異ニシテ、其ノ法、別アルニ非ラス。明ニ知リ、明ニ行フテ天覆フヒ、地載セ上下和楽シテ化育スルハ、コレ三才無窮ノ霊徳ナリ。後醍醐帝ノ御詠ニ、国治リ民安カレト思フコソ朕カ身ニツキヌ思ヒナリケリ、ト。蓋シコレコノミコヽロナラン。余案スルニ、天理人道ヲ行フ、大ニ二別アリ。纔カニ倫常ノ分ヲ失ナハス、禽獣ニ異ナルヲ限トスルアリ。天理ノ際ヲ窮メテ、天ニ継ヒテ極ヲ立ツルアリ。コノ二ノ中間階差心ヲ以テ知ルヘシ。但タシ天ニ継ヒテ極ヲ立ツルハ至聖ノ境界ニシテ、其ノ大測ルヘカラス。其ノ霊窺フヘカラス。其ノ富其ノ貴得テ説キカタシ。庸愚忘(妄か)リニ其ノ有無ヲ測リ、忘(妄か)リニ無ニ帰シテ教ヲ廃シ縦逸スルハ、コレ古今世ノ習ニシテ、其レ即庸愚タル所以ナリ。庸愚古今絶ヘス、至聖寧シテ無カラン。政教天ニ継ヒテ極ヲ立テ玉フ、是レ其ノ明証ナリ。兆民之レニ照準セスンハ、何ソ国ノ本タラン。明ニスヘキノ二字、宜シク肝ニ銘スヘシ。日本紀ニ媾事ニ天理ヲ説玉ヒ、礼ノ学記ニ人生レテ静ナル、人欲ノ動揺ナキヲ云。之レヲ天理トセリ。コレラノ二説ハ、倶ニ常人ヲ教ユル天理人道ナリ。若シ帝綱本紀ニ神者正直ヲ家トスト説キ、易ニ上天ノ事ハ音モ無ク、香モ無ク至レル哉ト謂ヒ、仏経ニ第一義、天ノ理ヲ説ク等、都テコレ至聖ノ天理人道ナリ。今コノ三条者、億兆ヲ教育シテ、人タラシムルノ政教ナリ。義、両種ニ通スヘシ。生レテ人タル、コノ道ヲ聞クノ外、復タ有ルコト無シ。語ニ、旦ニ道ヲ聞テ夕(ユフベ)ニ死ストモ可ナリトハ、蓋シコレコノ謂ヒ乎。

第三条

億兆ニ教ユヘキ、已ニ了レリ。故ニ今結シテ布教ヲ命シ玉フ。コレ其ノ次第ノ標目ナリ。漫ニ読過スヘカラス。

皇上ヲ奉戴シ朝旨ヲ遵守令ムヘキ事

八省各為サムル所アリ。倶ニ皇上ニ出ツル朝旨ノ政タリ。今コノ三条ノ中、前ノ二条ハ正シク教部ノ為サムル所ニシテ、億兆ヲシテ身ヲ修メ、徳ニ入ラシムルノ道ナリ。故ニ第三条、結テ布教ヲ命シ、奉遵セシムヘシトナリ。前ノ二条ノ政教ヲ布ヒテ帰向セシムル、コレ即皇上ヲ奉戴シ朝旨ヲ遵守セシムルナリ。コノ外、別ニ奉遵セシムヘキアルニ非ス。人コノ意ヲ得ス。別ニ説ク。進テハ布教ノ命ヲ失ナヒ、且ツ教部八省ヲ統摂スルノ失ヲ招クヘシ。退テハ前ノ二条、皇上朝旨ニ非ルノ過ヲ成ス。進退得ル所無シ。謂ツヘシ、粗漫ノ至リト。余不敏ヲ省セス、コヽニ評説ス。請フ、無礼ノ罪ヲ恕セヨ。

三条大意畢

彙　報

○第五回　企画・編集委員会
一、日　時　平成十四年十二月四日（水）午後六時
一、場　所　院友会館
一、出　席　阿部美哉・大原康男・三宅守常・石井研士・武田秀章・松本久史・間島誉史秀・大丸真美・佐藤一伯（敬称略）
一、協議事項
　㈠ 事業の全般的な方針について
　㈡ 紀要発行について
　㈢ 例会の開催について
　㈣ その他

○第六回　企画・編集委員会
一、日　時　平成十五年三月八日（土）午前十一時
一、場　所　明治神宮社務所
一、出　席　者　毛利義就・大原康男・石井研士・三宅守常・松本久史・間島誉史秀・大丸真美・佐藤一伯（敬称略）
一、協議事項
　㈠ 例会の位置付けについて
　㈡ 三条教則資料単行本化について
　㈢ ホームページ開設について
　㈣ 明治天皇関係図書の収集等について
　㈤ 入会条件について
　㈥ 投稿規定について
　㈦ 紀要第三十七号の企画編集について
　㈧ その他

○平成十五年度第一回（通算第三十五回）例会

一、日　時　平成十五年三月八日（土）午後一時三十分

一、場　所　明治神宮社務所講堂

一、講　師　進士五十八氏（東京農業大学長）

一、演　題　生物多様性と明治神宮の森

○平成十五年度第一回役員会

一、日　時　平成十五年三月二十九日（土）午前十一時

一、場　所　明治神宮文化館

一、出席者　（敬称略）

会　長　外山勝志

理事長　阿部美哉

理　事　大鳥居信史・岡田荘司・小林五郎・小堀桂一郎・猿渡昌盛・島薗　進・松山文彦・松橋暉男（代理）

評議員　石井研士・中藤政文・新田　均・三宅守常・富岡興永（代理）・塙　東男（代理）

監　事　宮崎重廣

企画編集委員　松本久史

事務局　間島誉史秀・大丸真美・佐藤一伯

一、会長挨拶

外山会長より、本日の主要議題である昨年度決算報告および新年度の事業について忌憚のない審議・意見をいただき、併せて本会事業の充実と発展に協力願う旨挨拶がなされた。

一、理事長挨拶

阿部理事長より、昨年来企画編集委員会において、毛利・阪本両常務理事を中心に本会事業の企画について熱心に協議を重ねてきたことが報告され、役員各位には引き続き会務の円滑な運営と発展に力添えをいただきたい旨挨拶がなされた。

一、協議事項

阿部理事長が議長となって協議に入る。

㈠　平成十四年度決算について

収支決算は、収入七、四一九、四六八円、支出六、六六九、二九一円となり差引残高七五〇、一七七円を次年度へ繰越、また特別会計は予備資金積立二〇〇万円を経常費より受入れ、合計二〇、五一一、四九二円を次年度へ繰越したことが事務局より報告された。引き続き宮崎監事より監査報告がなされ、異議なく承認された。

(二) 平成十五年度の事業について

① 公開学術講演会について

本年度の講演会については、十月二十五日（土）午後二時より明治神宮参集殿に於いて開催する予定であり、講師・演題については企画編集委員会で審議中であることが事務局より報告され、了承を得た。

② 例会について

第一回（通算第三十五回）は去る三月八日（土）、進士五十八氏（東京農業大学長）を講師に招き「生物多様性と明治神宮の森」と題して開催済みであり、第二回（通算第三十六回）例会は、九月十三日（土）に開催予定（演題・講師は企画編集委員会で検討中）である旨、事務局より報告がなされ、了承を得た。

③ 紀要発行について

第三十七号（六月一日発行予定、編集担当　石井研士氏・茂木栄氏）は、通過儀礼を中心とする「儀礼文化の現在」（仮称）についての特集号とすべく昨年来準備を進めており、井桁碧氏（筑波女子大学国際学部教授）「性の通過儀礼（仮題）」、佐々木美智子氏（日本民俗学会会員）「お産をめぐる儀礼（仮題）」、八木透氏（佛教大学文学部教授）「婚姻儀礼の変容と現代（仮題）」、板橋春夫氏（日本民俗学会会員）「臨終と看取り（仮題）」の四本の論文に加え、編集担当の石井研士氏が成人儀礼のことにも言及しつつ特集の「総説（仮題）」を執筆、さらに特集以外の論文、史料紹介を収録予定である旨、事務局および石井評議員より報告がなされ、了承された。また第三十八号（十二月一日発行予定）については企画編集委員会で検討中であることが報告された。

④ 『三条教則』関係資料単行本の編著・刊行について

三宅守常氏（本会評議員・企画編集委員）の翻刻・解題「『三条教則』関係資料」は、平成七年八月（『紀要』復刊第十五号）以来八年以上にわたり『紀要』誌上で連載中であり、これまで合計で六十七点の衍義書（紀要本文頁にして二段組六百頁以上）を翻刻・紹介してきた。昨年来、企画・編集委員会では同資料の単行本化の検討を進めていた。昨年（平成十四年）は明治五年に教部省が「三条の教則」を定めてより百三十年で、関連の衍義書の刊行は大教院が解散（大教宣布活動の衰微）した明治八年頃までがピークであったことなどを考えると、本企画は「『三条の教則』制定より百三十年」という時宜を得た出版となる。本件について、今後は三宅委員を中心に企画概要を纏め、次年以降の刊行に

向け本年より準備を進め、次期役員会で進捗を報告したい旨、事務局および三宅評議員より説明がなされ、了承を得た。
なお、阿部理事長より出版の形態について、書籍としての刊行の他、デジタル資料として纏めるなど、利用価値の高い方法の検討について提案があった。
また、新田評議員より、せっかくの好企画であり、この際に関連する文献目録も収録して欲しい旨提案がなされた。

⑤ ホームページの開設について
紀要目次や活動・催事案内、入会案内など、情報発信と広報を目的としたホームページ開設について、昨年十月二十六日の役員会における伊藤隆理事の提案を機に、早期実現をめざして、企画編集委員会の指導のもと事務局で準備を進めてきたことが事務局より報告され、協議の結果、現在作成中の試験版ページを、四月中に正式公開することが承認された。
なお、阿部理事長より、当面は論文目録のみの公開となるが、論文そのものの公開については今後、新しいものは執筆時に著者に承諾を得、また古いものについては著作権に考慮しつつ公開を検討して欲しい旨意見があり、当件については企画編集委員会で検討中であることが石井評議員および事務局より報告された。

(三) 平成十五年度予算について
本年度収支予算については、前年対比三〇〇、九五四円減額の七、二六一、一七七円を計上、また特別会計への積立は昨年度予算と同様一〇〇万円とする案が事務局より提出され、協議の結果異議なく承認された。

(四) その他
① 入会条件の変更について
現在は希望者が無条件に入会できる形態となっているが、既会員の推薦を入会条件に付加すべき旨、前回役員会で提案があり、懸案事項となっていた。昨年十二月四日及び本年三月八日の企画編集委員会で協議したところ、会員一名の推薦を入会条件に加えることとし、ただし研究者ではない一般市民から入会希望が合った場合、事務局が面談等でよく吟味の上、推薦の適不適を判断することとしたい旨、事務局より説明があり、了承を得た。
② その他
本会の事務所（明治神宮教学研究センター）は現在、明治神宮社務所内に設けられているが、明治天皇御生誕百五十年記念の境内施設整備事業の一環として実施中の明治神宮会館の改修工事が本年五月に完了予定であり、それに伴い研修施設の備わった同所に事務所が移転する予定であることが事務局より報告された。

○第七回　企画・編集委員会
一、日　時　平成十五年六月十一日（水）午後六時
一、場　所　院友会館
一、出 席 者　阿部美哉・毛利義就・阪本是丸・大原康男・石井研士・三宅守常・茂木　栄・武田秀章・松本久史・間島誉史
秀・大丸真美・佐藤一伯（順不同・敬称略）
一、協議事項
㈠ 公開学術講演会について
㈡ 例会について
㈢ 紀要発行について
㈣ 『三条教則』関係資料単行本の編著・刊行について
㈤ その他

○平成十五年度第二回（通算第三十六回）例会
一、日　時　平成十五年九月十三日（土）午後一時三十分
一、場　所　明治神宮社務所講堂
一、講　師　松本久史氏（國學院大學日本文化研究所助手）
一、演　題　近代神道学者の国学観

○平成十五年度第二回役員会
一、日　時　平成十五年十月二十五日（土）午後十二時三十分
一、場　所　明治神宮崇敬会会議室
一、出 席 者　（敬称略）
会　長　外山勝志
常務理事　毛利義就・阪本是丸
理　事　大原康男・小林五郎・松山文彦・湯澤　貞（代理）
評 議 員　石井研士・富岡興永（代理）・中藤政文・塙　東男（代理）・茂木　栄

監　事　男成洋三
事務局　間島誉史秀・大丸真美・佐藤一伯

開会に先立ち、顧問として本会運営に特段尽力され、本年逝去された故上田賢治大人命・福島信義大人命に一同で黙祷を捧げた。

一、協議事項

外山会長が挨拶の後、阪本常務理事が座長となって協議に入る。

㈠　任期満了に伴う役員改選について

今回の改選では全役員を重任としたい旨、阪本常務理事より提案がなされ、了承を得た。また明治神宮総合管理部長の交替に伴い監事を男成洋三氏に依頼したい旨、阪本常務理事および事務局より提案がなされ、異議なく了承された。

㈡　本年度の活動状況について

阪本常務理事より左記の通り報告がなされた。

①　例　会

第一回（通算三十五回）は三月八日（土）、明治神宮社務所講堂にて「生物多様性と明治神宮の森」と題し進士五十八氏（東京農業大学長）、第二回（通算三十六回）は九月十三日（土）、明治神宮社務所講堂にて、「近代神道学者の国学観」と題し松本久史氏（國學院大學日本文化研究所助手）がそれぞれ発表した。

②　紀　要

復刊第三十七号（平成十五年六月発行）は、「儀礼文化の現在」の特集を組み、企画担当の石井研士氏をはじめ佐々木美智子氏・井桁碧氏・八木透氏・板橋春夫氏の論文を収録した他、新田均氏の論文「島薗進『国家神道論』の吟味（二）」、史料として三宅守常氏「三条教則関係資料（二十二）」を収録した。復刊第三十八号（平成十五年十二月発行予定）は現在編集中であるが、論文は中野裕三氏「『顕生魂』説の原由―橘守部の神学―」・中西正史氏「アーネスト・サトウの神道観」・新井大祐氏「『神道雑々集』研究序説」、講演録は水谷三公氏「明治という時代―江戸の悲願と明治政府―」、史料として三宅守常氏「三条教則関係資料（二十三）」を収録する予定である。

③　公開学術講演会

本日（十月二十五日）午後二時、明治神宮参集殿にて岡崎久彦氏（ＮＰＯ法人岡崎研究所所長）が「日本のアングロ・アメリカン外交」と題して講演する。

④　ホームページの開設

三月役員会承認を得て、四月にホームページが開設した。主要検索エンジンにも登録され、ページ上からの講演会申込が約三十件あるなど、学会の紹介・広報等に活用がなされている。

㈢　収支中間報告

事務局より平成十五年一月一日から九月三十日までの経常並びに特別会計の収支について中間報告があり、承認された。

㈣　明年の事業計画について

阪本常務理事より、明年の紀要（三十九号または四十号）で、「明治天皇」または「国学」の特集号を企画中であること、「三条教則関係資料」については、明年十二月発行予定の紀要（四十号）まで連載し、平成十七年度以降に単行本化を企画中であることが報告された。また、その他の活動については、企画・編集委員会にて企画立案し、明春の役員会にて審議したい旨報告があり、了承された。

○公開学術講演会

一、日　　時　平成十五年十月二十五日（土）午後二時
一、場　　所　明治神宮参集殿
一、講　　師　岡崎久彦氏（ＮＰＯ法人岡崎研究所長）
一、演　　題　日本のアングロ・アメリカン外交